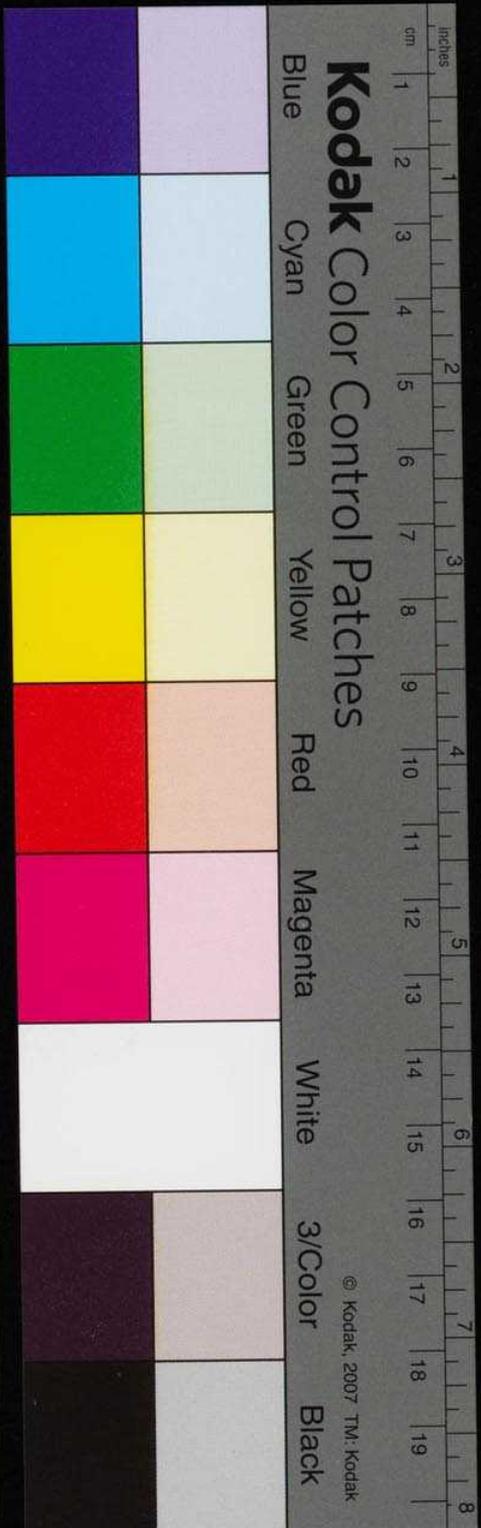


校 冊

要馬秘極集

八九



要馬秘極集 八・九

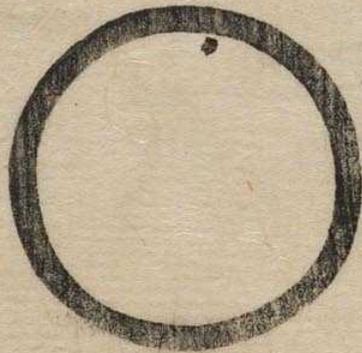
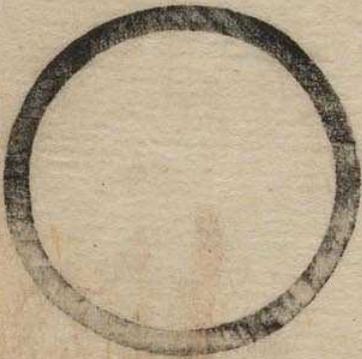
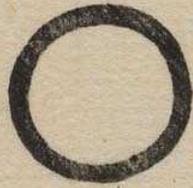
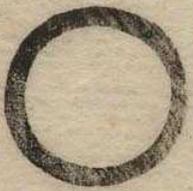
麻布大学所蔵

要馬秘極集卷之八

腰論之晷

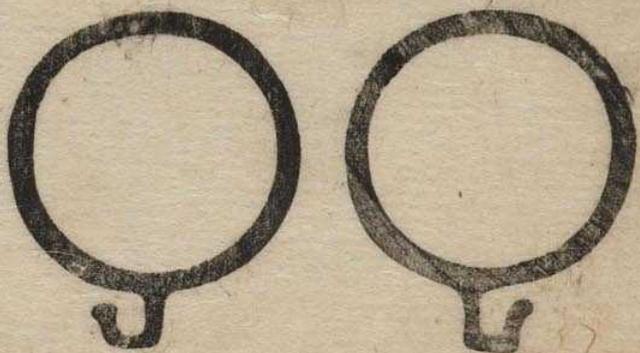
劔之卷第三

此大漏ハ腰漏と云と若く
アツクよえいといふハ漏り小
漏り子綴らりの漏り二ツ
ハ腰ノ大小カクふハ二方
カクろごこ



掛論の晝

けいひのりかしくひんくかきよらりらるる
まろいよひの響のひひるくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
のきりくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく
けいひのりかしくひんくかきよらりらるる
まろいよひの響のひひるくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
のきりくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく



論之晝

けいひのりかしくひんくかきよらりらるる
まろいよひの響のひひるくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
のきりくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく

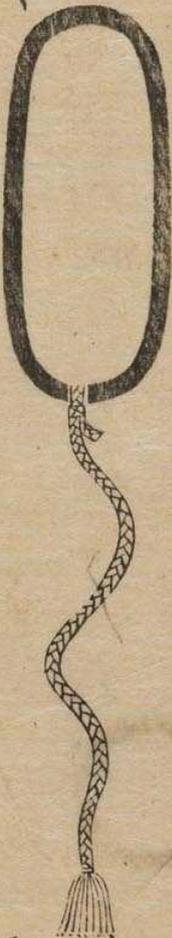


まろいよひの響

まろいよひの響

まろいよひの響

まろいよひの響のひひるくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
のきりくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく



栓之晝

まろいよひの響

まろいよひの響

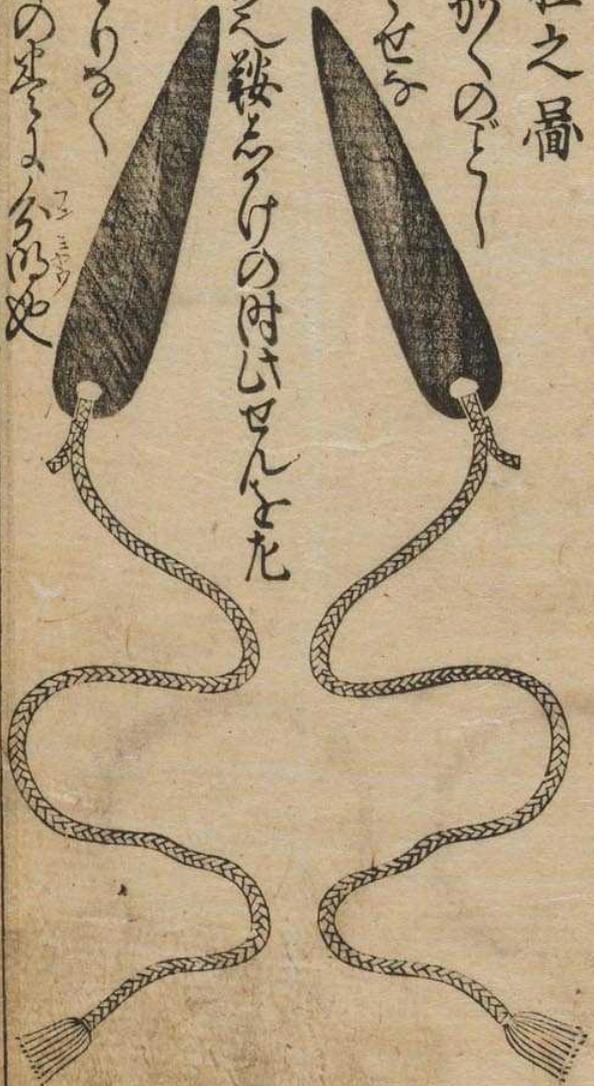
まろいよひの響

まろいよひの響のひひるくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
のきりくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく

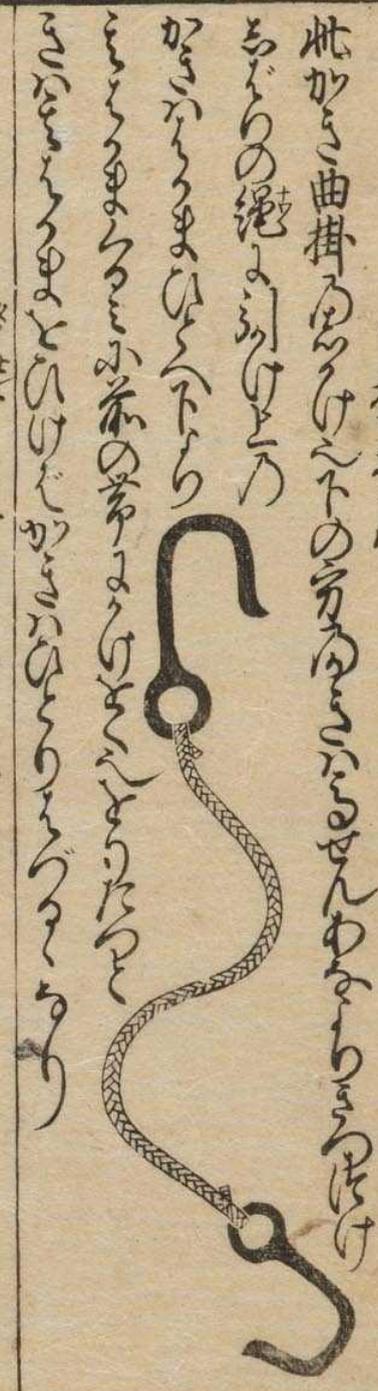
まろいよひの響

まろいよひの響

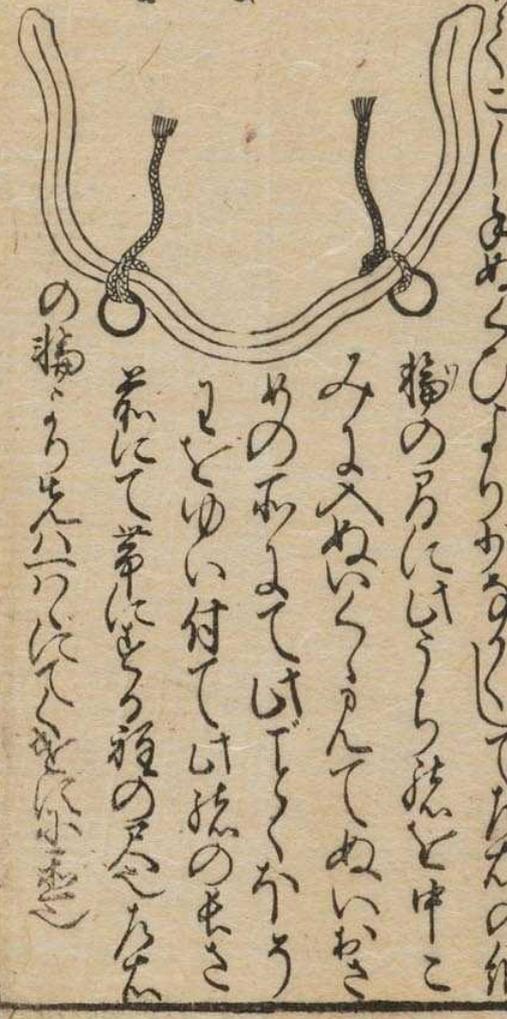
まろいよひの響のひひるくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
のきりくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく



曲掛之晝



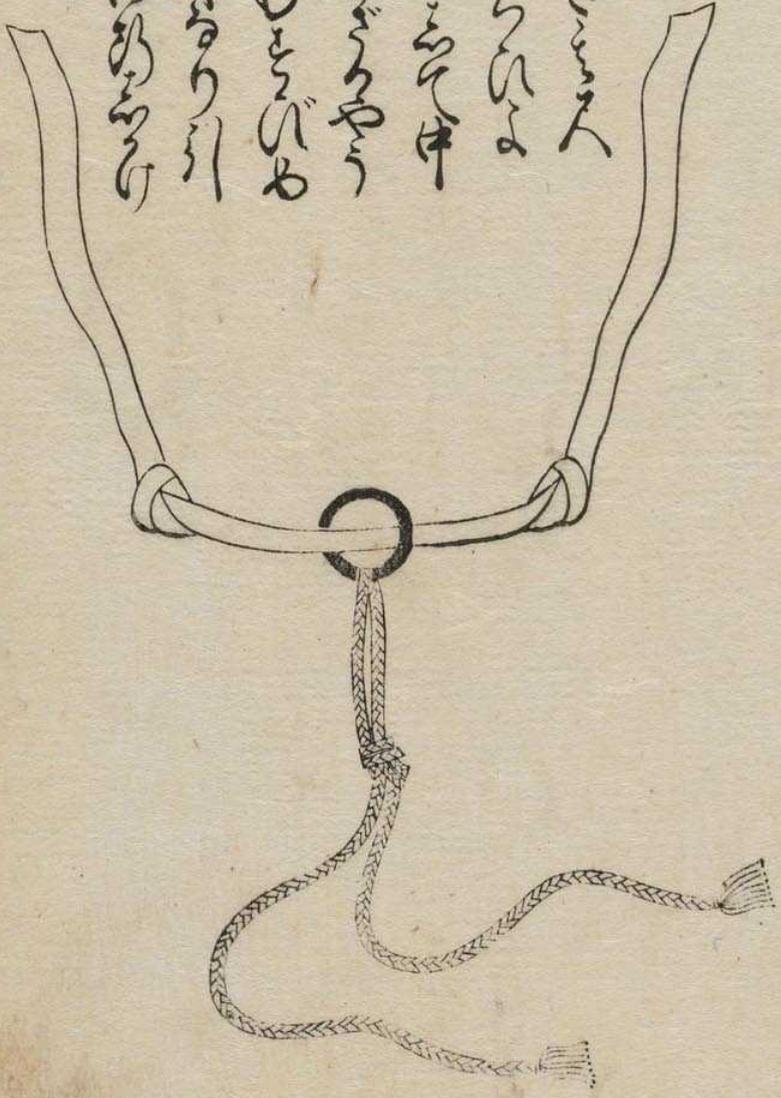
帯掛之表之仕掛之晝



しやうじよの腰
まじりのついで

此志うけあめうらあふくこまねらひよりあきりしてらたの細
櫛の尻にいしうら法と申こ
みよ入ねいらんてぬいぢさ
めのあよしてけいしうかろう
ことゆい付てけい法のもさ
糸にて帯にさう櫛の尻にらた
の櫛より先六つにさへはふさ

帯掛之裏之仕掛之晝

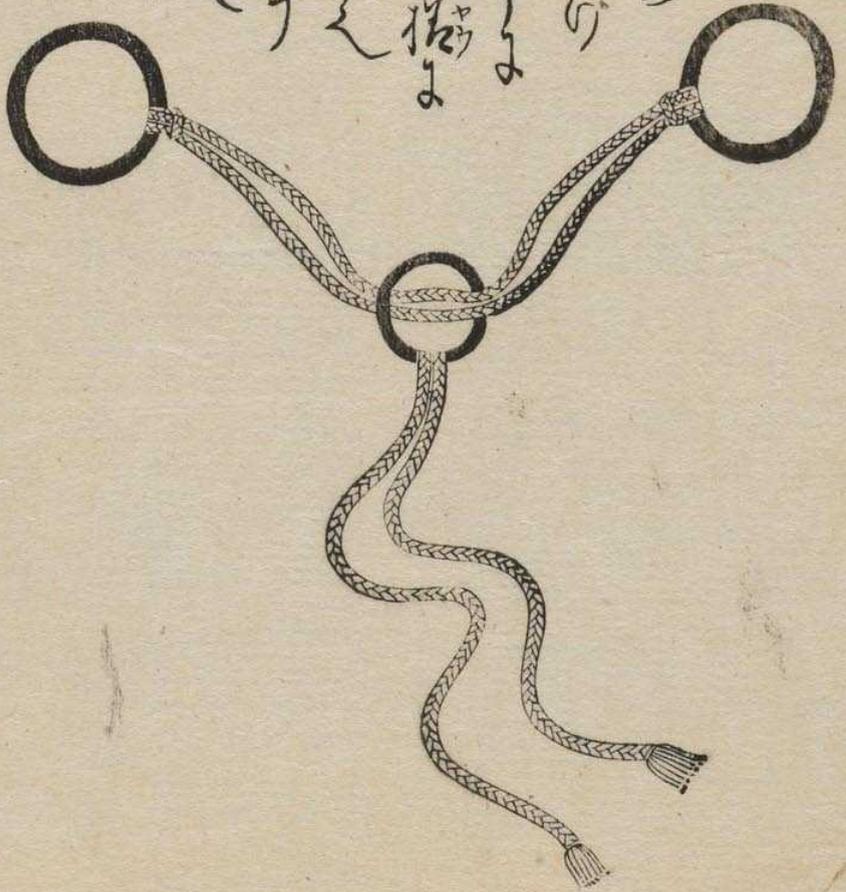


けあうけあひ
しやうじよの
まじりのついで
しやうじよの
まじりのついで

縷乃あきよの口仍

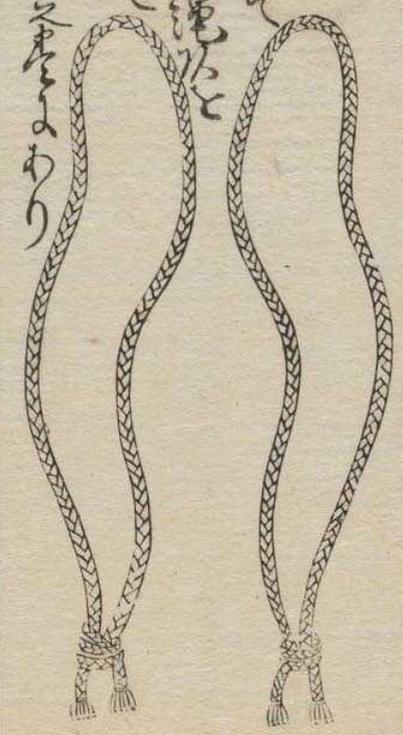
輪好仕掛之圖

此ふけのいんぐりの
 強靱^{キチ}裏のふけ也
 け強ふけの付くもの
 ごとくよきものも強さの
 多して用ゑたる強さよ
 用強くはふけをそか強よ
 らふけをよむあつらふ
 ありふけをよむあつら
 一ツ二ツと用ゑるもの
 川筋のふりぎのぬり
 のあよ一筋の引きて
 ることよはひのあつら



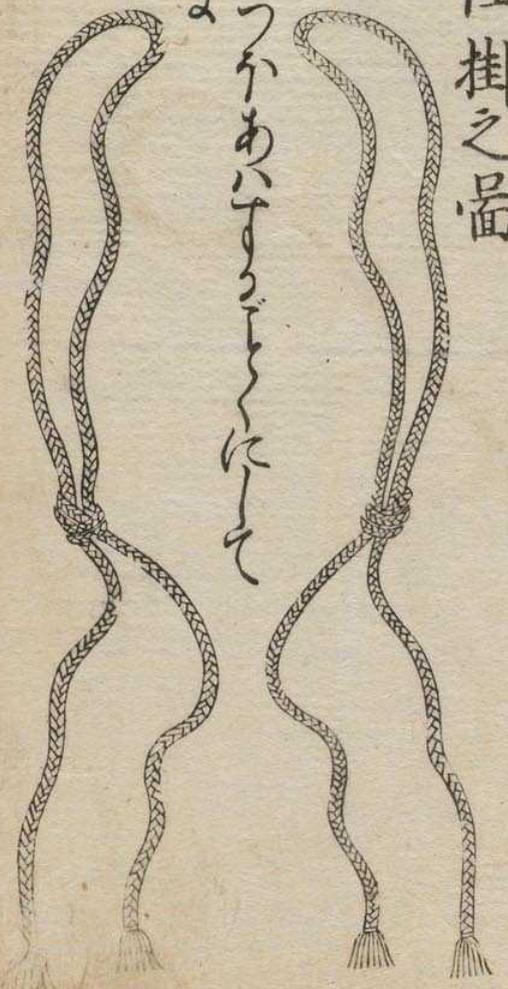
相引仕掛之圖

けふけのひの引のふけをよむ
 ひとびめのつかかふよむの引
 若に下より引ると引かちては繩は
 おおとも繩抄返してよむと
 せんはよむとよむは強さのほむ
 せよむ

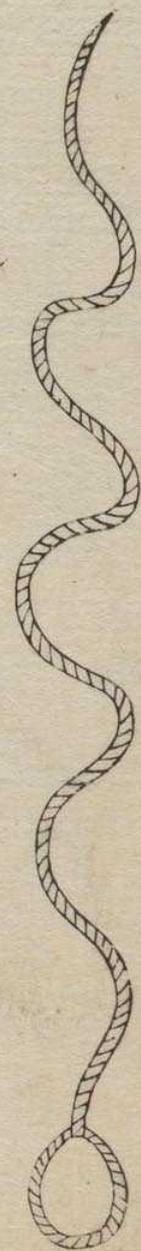


折立之仕掛之圖

けふけのふけをよむ
 あつらふのふけをよむ
 ようけをよむ
 引かちては繩は
 おおとも繩抄返してよむと
 せんはよむとよむは強さのほむ
 せよむ

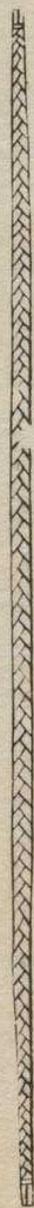


上糸網繩之圖



けしき縁の繩ニ施すはのよびがよきなり
 とく／＼の繩をかくのよびはのよびの
 けしき
 ニのり
 よしき

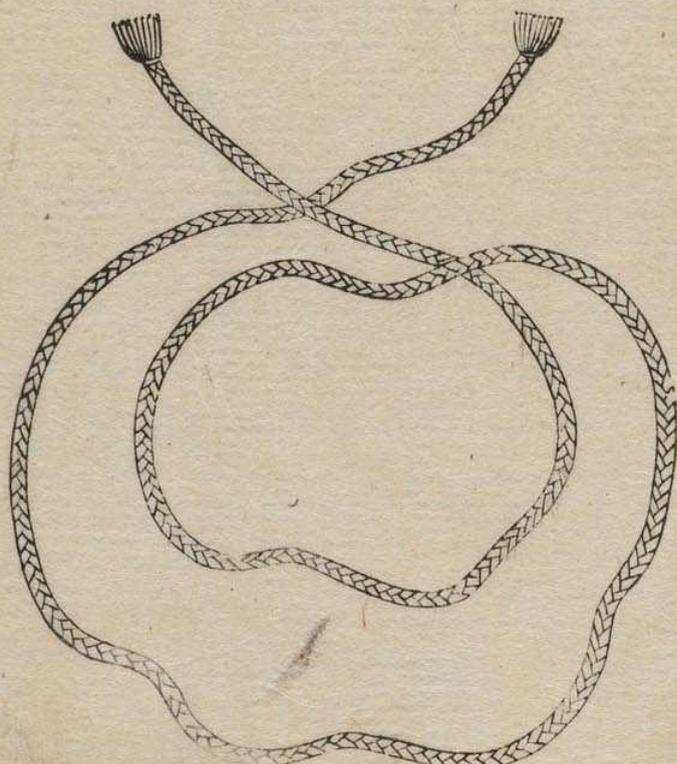
仕掛繩



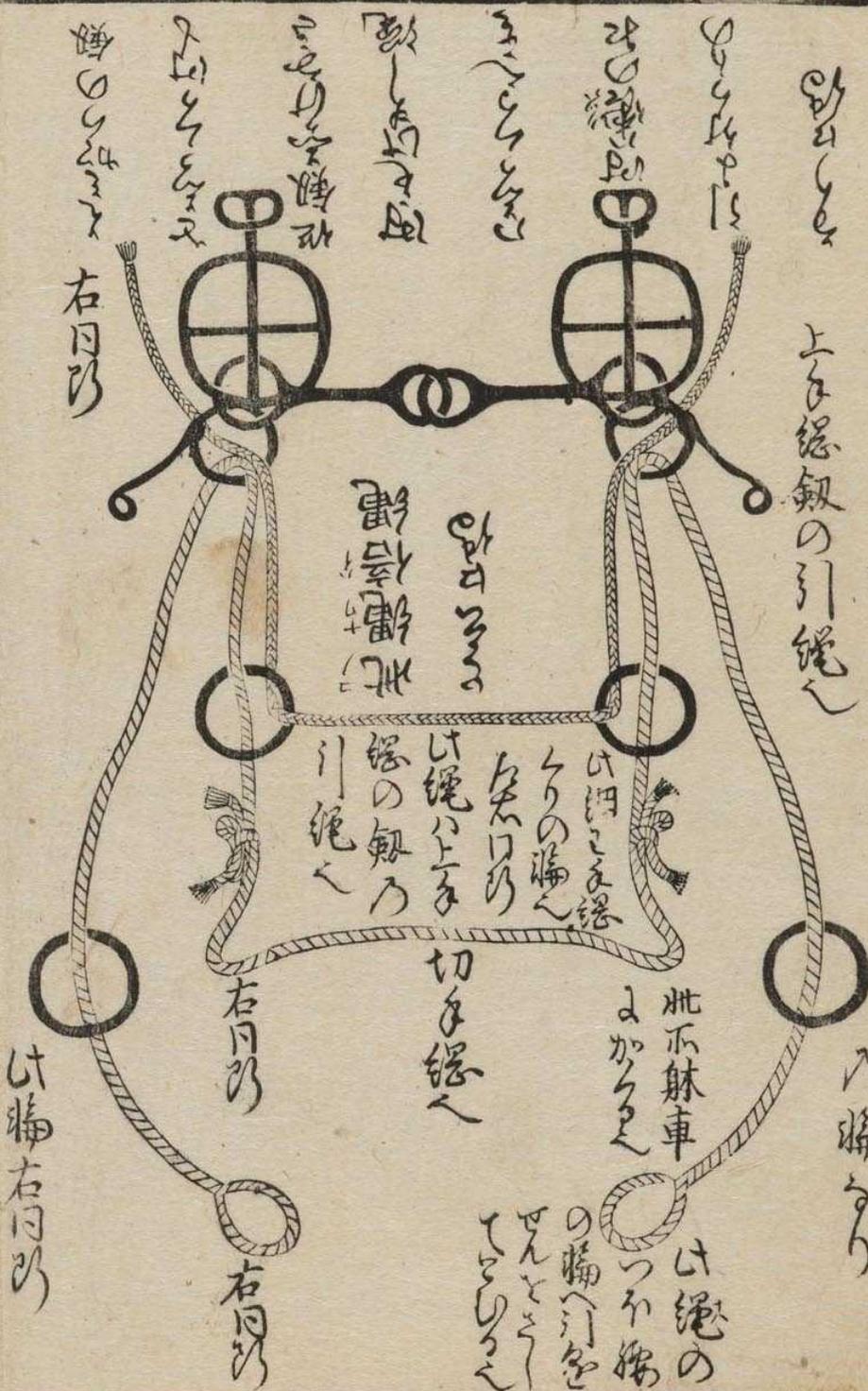
けしき縁の繩ニ施すはのよびがよきなり
 とく／＼の繩をかくのよびはのよびの

上帶之圖

けしき縁の繩ニ施すはのよびがよきなり
 とく／＼の繩をかくのよびはのよびの
 けしき縁の繩ニ施すはのよびがよきなり
 とく／＼の繩をかくのよびはのよびの



常解之仕掛之圖



おしん

よき銀の引繩

け 牽力さじ

の 牽り

おしん

おしん

おしん

おしん

おしん

おしん

おしん

け 牽右目

右目

右目

批 車

よ 加

け 繩の
つり掛
の 牽り
を
見
て
おしん

切 糸 銀

け 繩
の 牽り
の 牽り
の 牽り
の 牽り
の 牽り
の 牽り

おしん

おしん

いらいは常解の紐ありののれはけしんすなわだつふよきとる
— け 牽り

あしやんすなわだつふよきとる

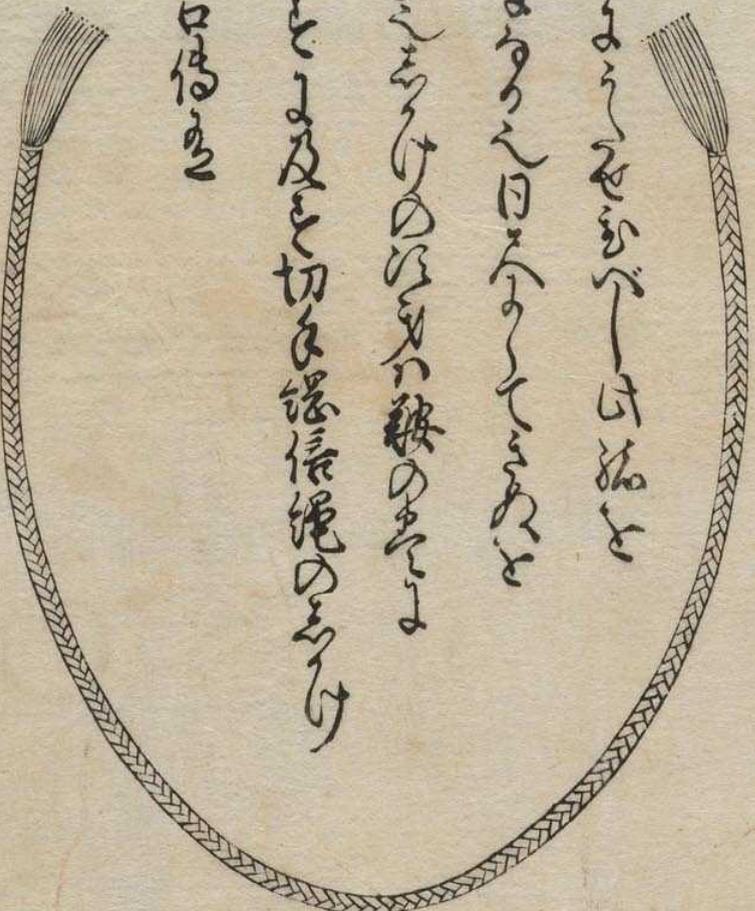
あしやんすなわだつふよきとる

あしやんすなわだつふよきとる

あしやんすなわだつふよきとる

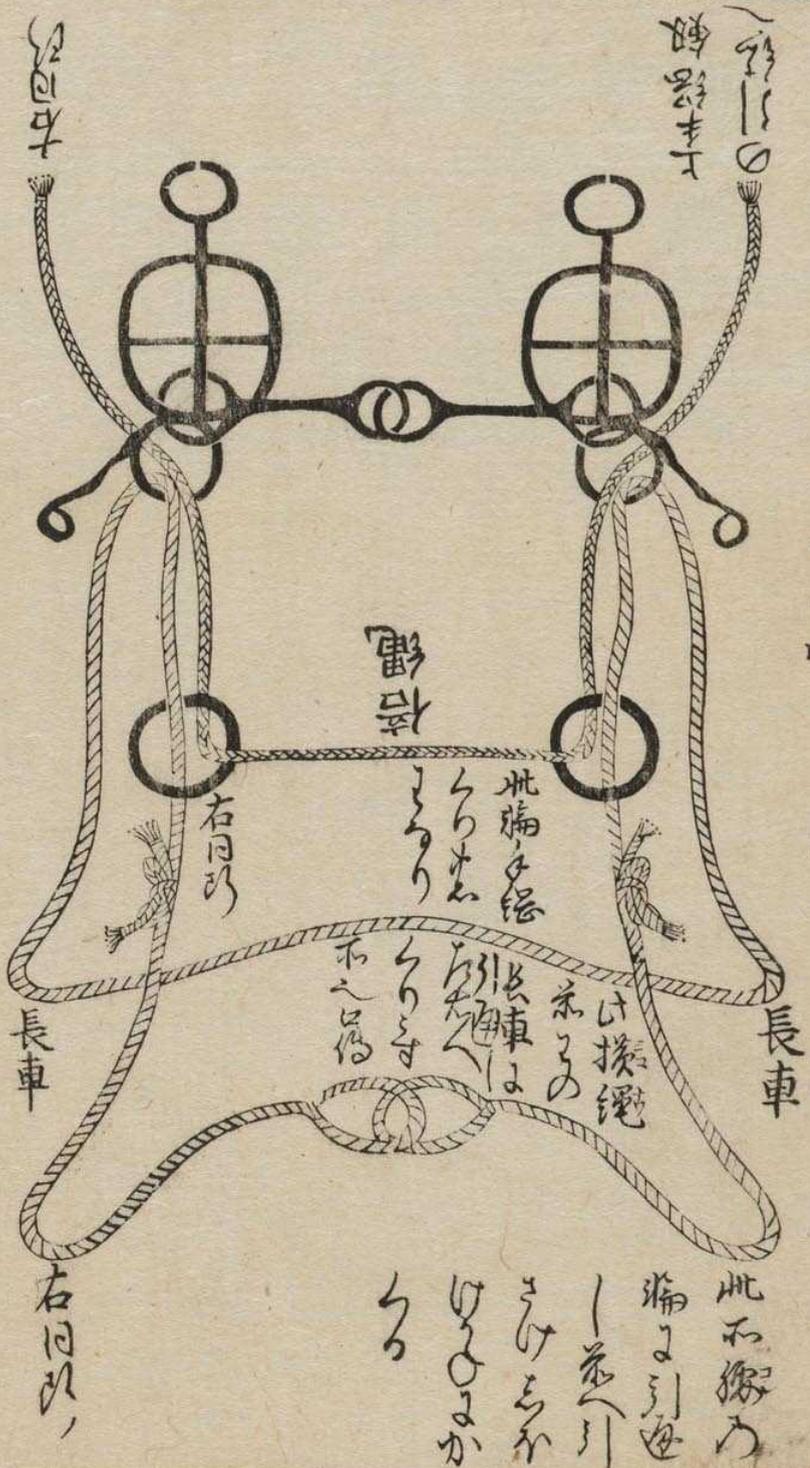
あしやんすなわだつふよきとる

常車の紐



おしんすなわだつふよきとる

船連仕掛之圖



此の繩は二ヶの江舟を繋ぐ繩の法義ありしりさか行の繩とてさくら
 も同様に世々の用ゑる物見るともよろ色を縁より長繩とてさくら
 りらんとせんとせとせゆよりたの繩さしよりさか行の繩とてさくら
 の繩とてさくらとせゆよりたの繩さしよりさか行の繩とてさくら
 の繩とてさくらとせゆよりたの繩さしよりさか行の繩とてさくら
 ても勸人心をけゆさくらとせゆよりたの繩さしよりさか行の繩とてさくら
 を急緩とてさくらとせゆよりたの繩さしよりさか行の繩とてさくら

仕掛金

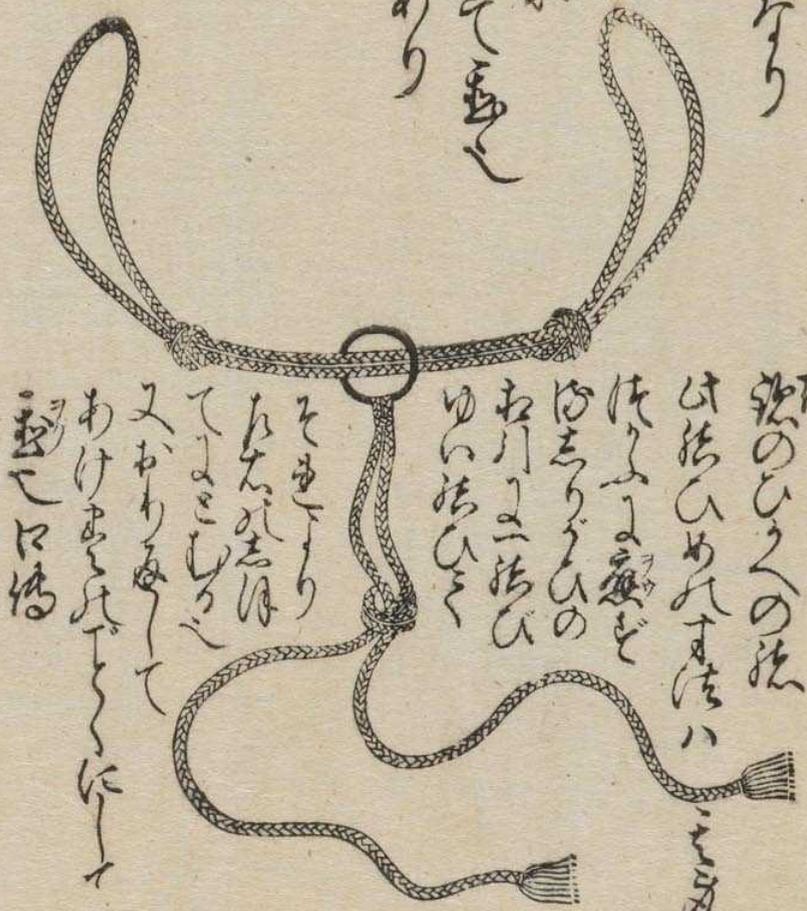
船連の繩さくらとてさくらとせゆよりたの繩さしよりさか行の繩とてさくら
 二分さくらとてさくらとせゆよりたの繩さしよりさか行の繩とてさくら
 ありてはけの繩と上さくらとせゆよりたの繩さしよりさか行の繩とてさくら
 しりてはけの繩と上さくらとせゆよりたの繩さしよりさか行の繩とてさくら



此の繩は二ヶの江舟を繋ぐ繩の法義ありしりさか行の繩とてさくら
 も同様に世々の用ゑる物見るともよろ色を縁より長繩とてさくら
 りらんとせんとせとせゆよりたの繩さしよりさか行の繩とてさくら
 の繩とてさくらとせゆよりたの繩さしよりさか行の繩とてさくら
 の繩とてさくらとせゆよりたの繩さしよりさか行の繩とてさくら
 ても勸人心をけゆさくらとせゆよりたの繩さしよりさか行の繩とてさくら
 を急緩とてさくらとせゆよりたの繩さしよりさか行の繩とてさくら

躰連仕掛之鬘

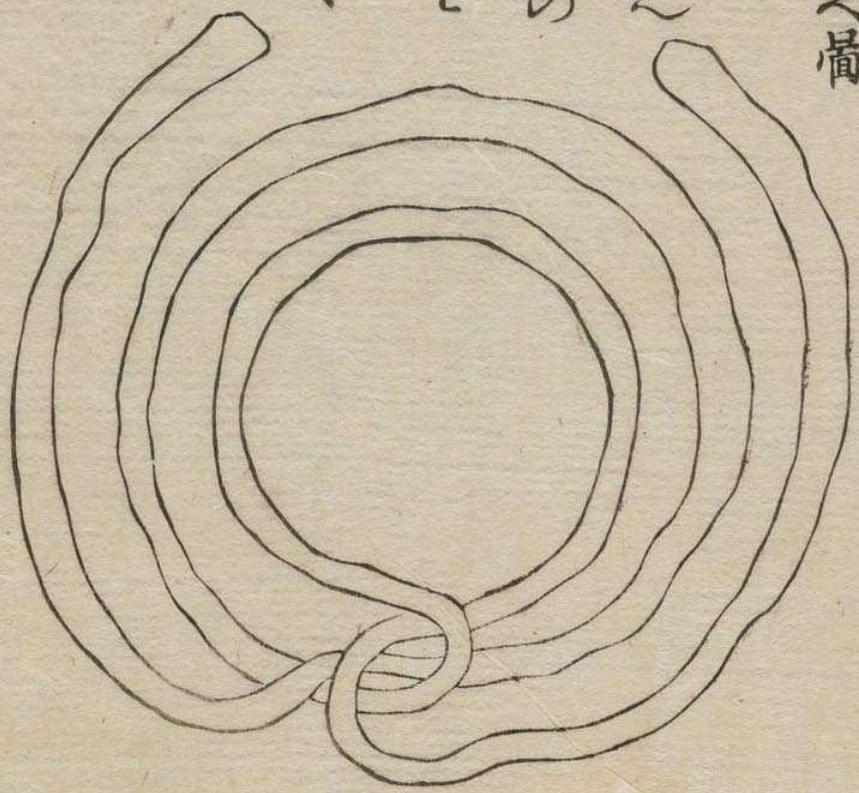
躰連の志うけちりなり
けうり法がそ痛れ
何と川邊へ来た
それわけざりやうふ
けひめとあくくしてあ
そすは結れあまあり



下
法のひの法の
け法ひめす法ハ
けふふよ
けちりふひの
おひふ法ひ
ゆい法ひ
そまより
ふたふ法
てよこし
又おりあつて
わけあま
あては法

強腹帶之鬘

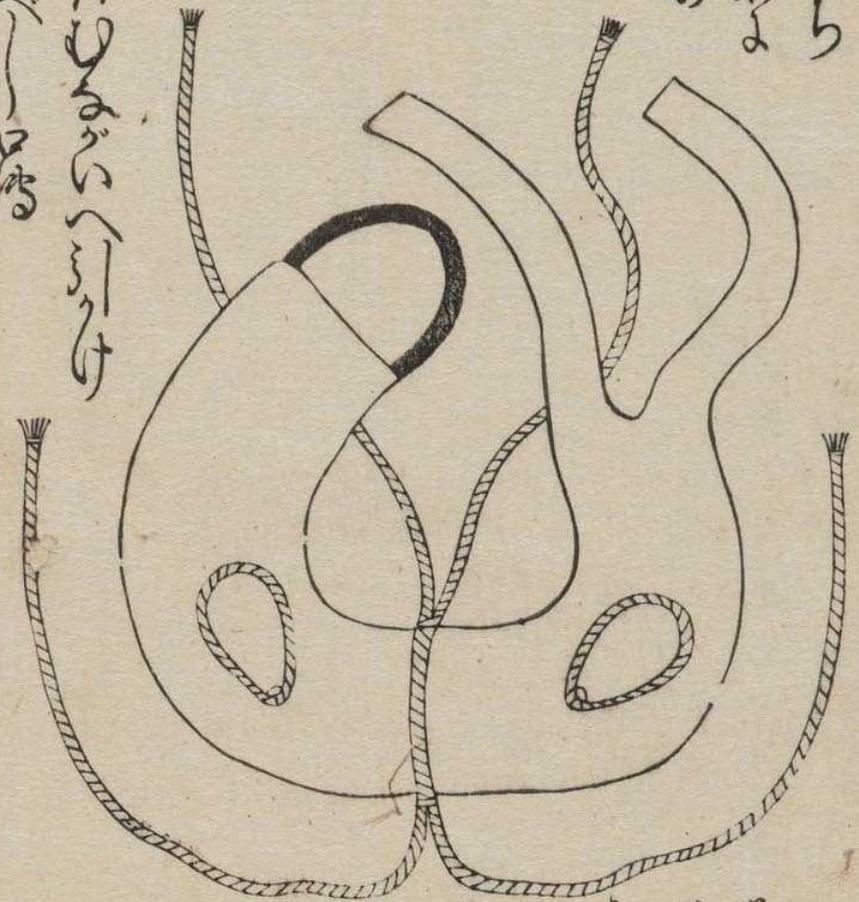
此腹帯ハ一とわぬの
あさつよとりてあ
ごく引とて結
あてはあま
よ分明也



掛腹帶之鬘

此掛後常ハ糸をくわくして縋うらうらうとせし
けりこの端切付のわらと引とせしうらうけし

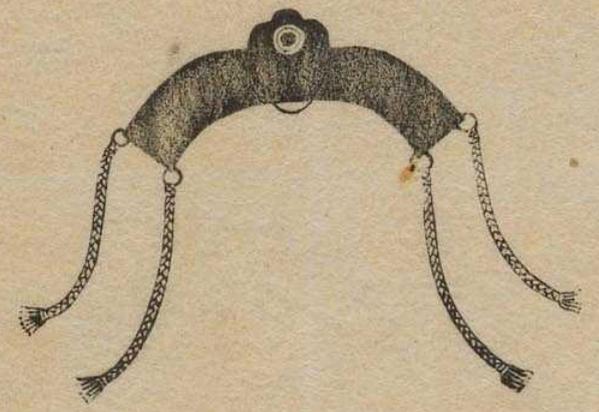
けわのうら
うられのあよ
引ひけらあ
法びて
二筋ハ
とせ尾
たよひ
とせえ
糸の二筋ハひまざらひ引ひ
ゆいてむべし口傳



糸後の繩をく
まへに引け布
よあへの口傳
てむらう口傳
のあててよ引
とあむとびむ
てむらう口傳
繩にひやう口傳
わり口傳

頭車之番

けとらうしやハわら
うけれやこらよ
かけてとあ
とらうし
うけよとらと
ゆいしあ甲ハ
こしげあ

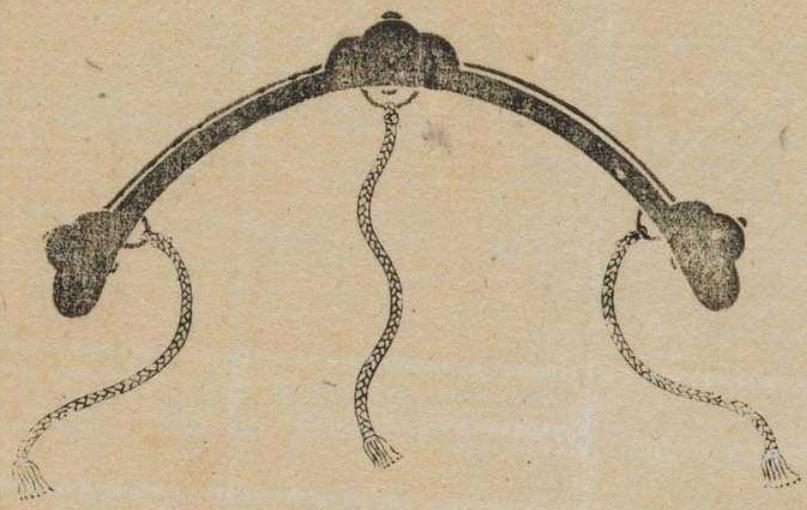


あまりこのらあまはする分のあひの口傳
しとらりこのらあまはする分のあひの口傳
らこのらあまはする分のあひの口傳
ゆらあまはする分のあひの口傳
まらけあまはする分のあひの口傳

べーなちろーろろあちくまふまふり紐なちのきの
とー

長車之番 チリニヤ

け長車ちろろうたいち
いふあめらとふてといれこ
とくはちろろろれをり
とろろ二寸二分あて
内かかこわりて紐の
方よしとろれとやうと
けけとろれかざりはたも
けけとろろろろろとろ
よりまれ車ちろろろれ西
内の方かきめくろりてはまよく



とろろもの也け車なてよちりてまろろ也中なちよ付
紐ち中の紐の紐の糸の肉引れゆりてまろりたちの
付紐の紐なちのちよてつけろろろ引れゆりてま也
とろ付あつとくけろろ口はちけ車よとろ紐引とろ
糸のちち紐糸よとろとろろのちよあちひろとろ
糸とろ紐ゆりろろ紐のち引つひろとろとろろろ
とろとろひろろちのちのちとろとろとろとろとろ
とろよとろとろとろとろとろとろとろとろとろとろ
とろとろとろとろとろとろとろとろとろとろとろ

躰車之雷



かけ括す口傳



方ち回すは車
くはありてを括す括
つきの括同様付括めん
あふべし口傳

Handwritten text in cursive script, likely describing the items or their use.

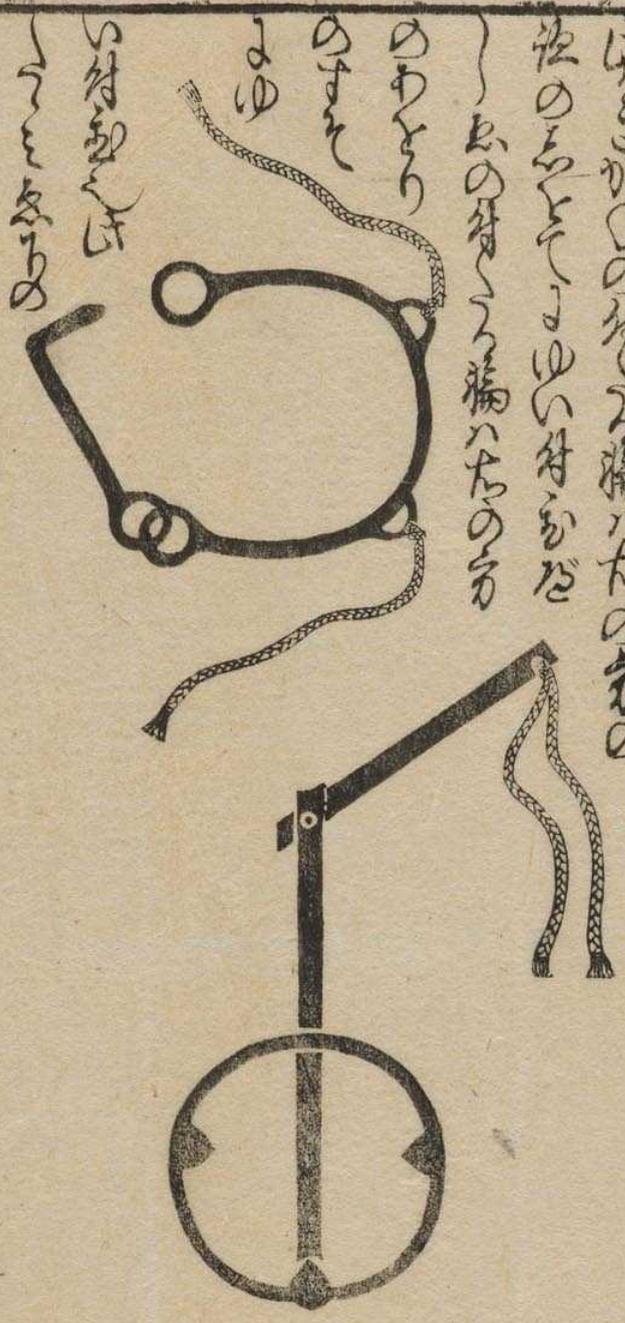
Main body of handwritten text in cursive script, providing detailed information or instructions.

のじまはちとをりてうりん 儀るてしめらひて
 しく儀めかるとあしとふからちたかららめりて
 しくうまうちを交経車銀のぬ備とせんようとして
 かんちと幼若くすむゆくとをりてうりて
 かうりわりてのしくと幼見せむりてうりて
 とりのりてあやうとてしとてやうの儀の廻車
 家侍の秘傳を實授り集よ分明也

形鑑之卷

軍鏡納

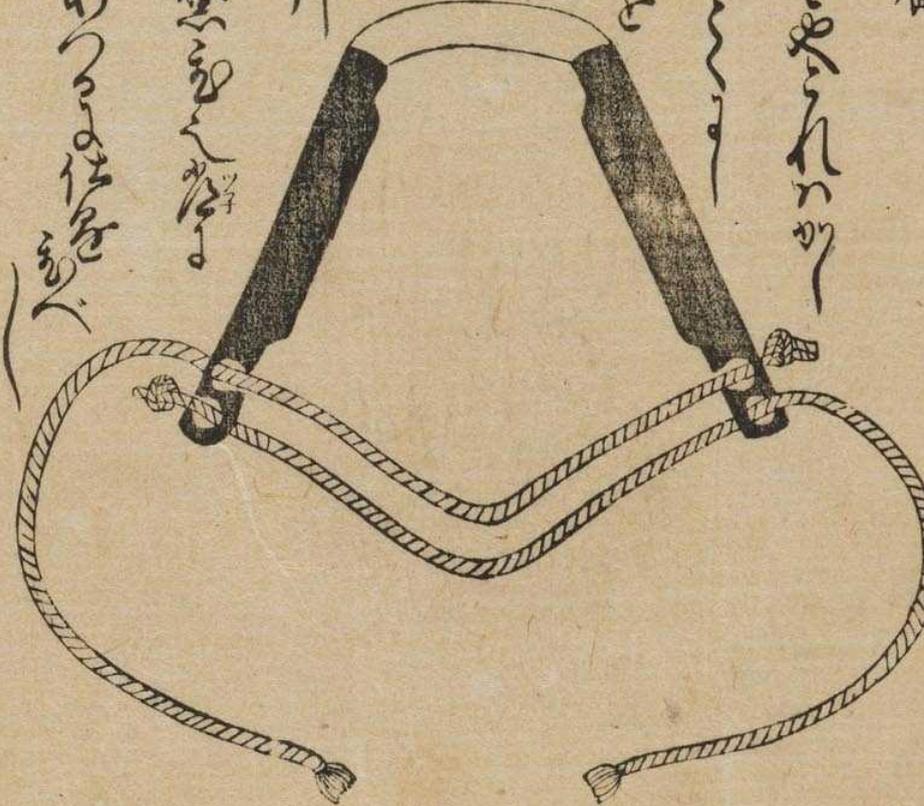
けりてかひの付るる漏れたる方の
 後のもててしゆの付るる
 一の付るる漏れたる方



けりてかひの付るる漏れたる方の
 後のもててしゆの付るる
 一の付るる漏れたる方

日鼻皮之罽

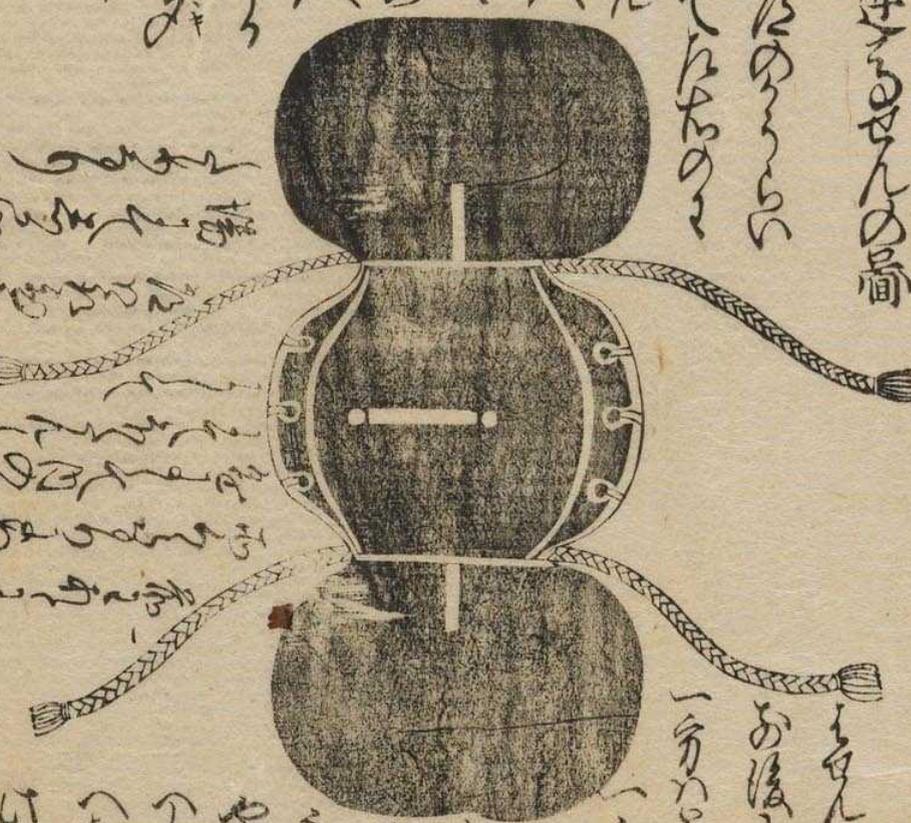
此乃馬之鼻皮也其製法
 乃取馬鼻皮一箇洗淨
 然後以鹽水浸之使
 其色變白且去其穢
 氣然後以藥水塗之
 使其堅韌且耐暑
 燥此乃其製法也



乃其製法也其製法
 乃取馬鼻皮一箇洗淨
 然後以鹽水浸之使
 其色變白且去其穢
 氣然後以藥水塗之
 使其堅韌且耐暑
 燥此乃其製法也

續連之罽

此乃馬之續連也其製法
 乃取馬鼻皮一箇洗淨
 然後以鹽水浸之使
 其色變白且去其穢
 氣然後以藥水塗之
 使其堅韌且耐暑
 燥此乃其製法也



乃其製法也其製法
 乃取馬鼻皮一箇洗淨
 然後以鹽水浸之使
 其色變白且去其穢
 氣然後以藥水塗之
 使其堅韌且耐暑
 燥此乃其製法也

總ヤリうぐいすのウサ巻

うぐいすのウサ巻

此巻ヤリうぐいすのウサ巻
今ハこの田ウサ下ウサをウサ
二寸ウサ分ウサ上ウサよウサりウサ
るウサものウサのウサ脚ウサはウサ後ウサてウサ
わウサるウサ也



けつがウサいウサひウサるウサ指ウサようウサらウサ
あウサのウサ結ウサちウサり

ハウサキウサコウサレウサユウサテウサノ
馬上腰當之ウサ巻



是ウサハウサ上ウサのウサ一ウサめウサのウサ一ウサ寸ウサ分ウサ上ウサよウサりウサ
るウサものウサのウサ脚ウサはウサ後ウサてウサ
わウサるウサ也
今ハこの田ウサ下ウサをウサ
二寸ウサ分ウサ上ウサよウサりウサ
るウサものウサのウサ脚ウサはウサ後ウサてウサ
わウサるウサ也

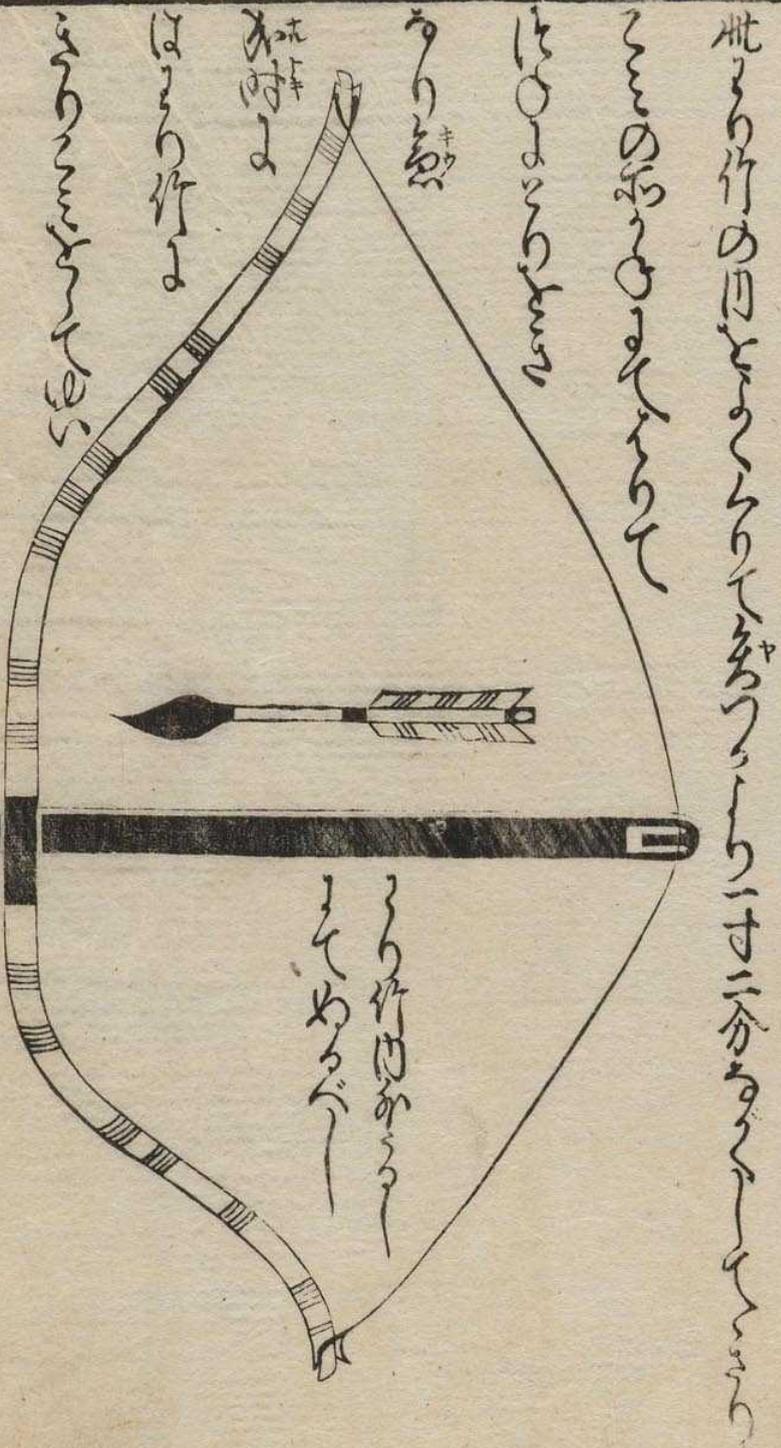
忍桃燈之扇

Handwritten text in cursive style, likely describing the lamp or fan.



Additional handwritten text surrounding the lamp illustration.

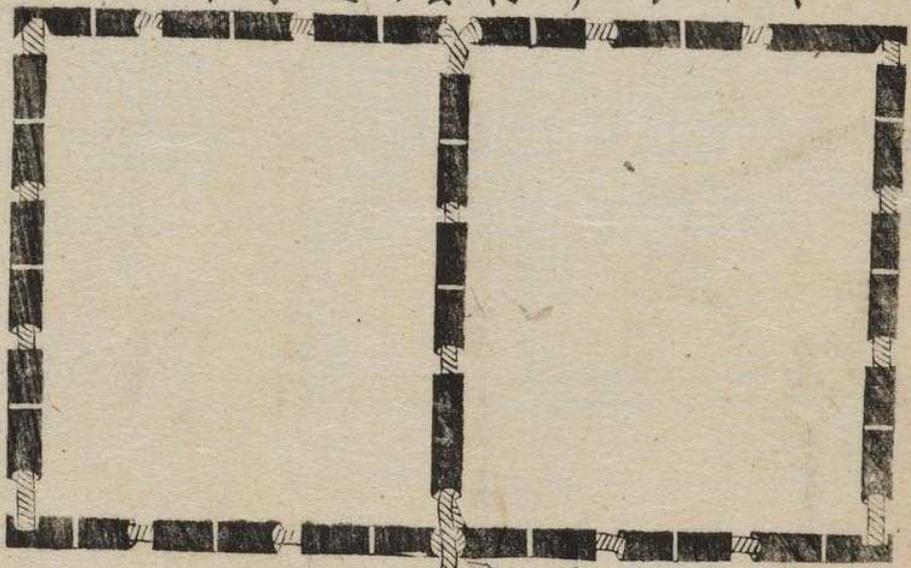
かきくし扇



Handwritten text on the left side of the fan illustration.

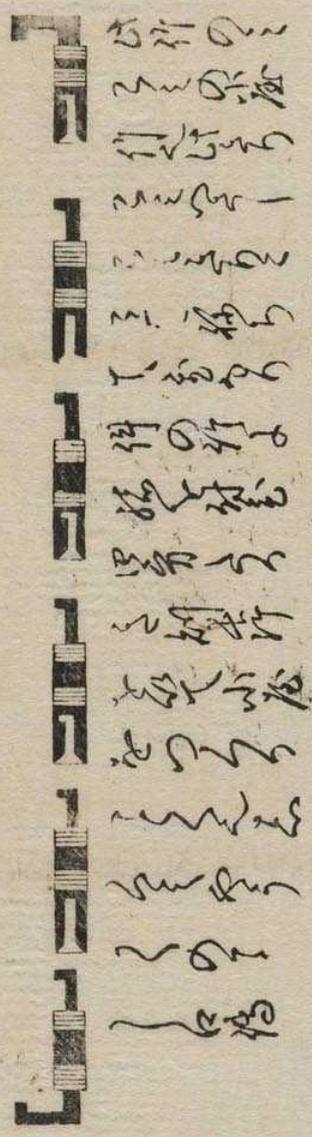
小倉之場

小倉行也と二人
 ありては二ツ
 ては解きあす
 ぶらぶら行せり
 のち行せり
 かうり
 して
 かわり
 して



け行三方は
 て一方は
 けは
 の小倉
 あり

小倉行之畵



け行の
 あり

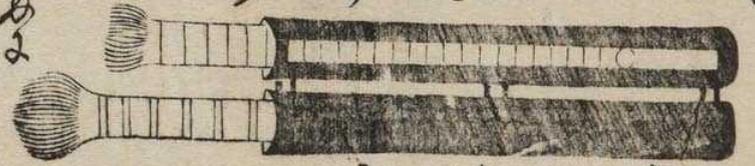
右之小倉より
 ありては
 侍者の



け令長と二人あり
 あり

懐火之圖

け懐火をさしおこし行とまじり切て
 のちりしきり切てしきりしきり
 ようて後よりさし入て後よそこ
 せし中れしきり明の火のほよか
 せしきりしきりしきりしきりしきり
 せしきりしきりしきりしきりしきり
 せしきりしきりしきりしきりしきり
 せしきりしきりしきりしきりしきり



右に記すは懐火の
 作りしきりしきり
 せしきりしきりしきり

此の明の火の二方よりさしおこし

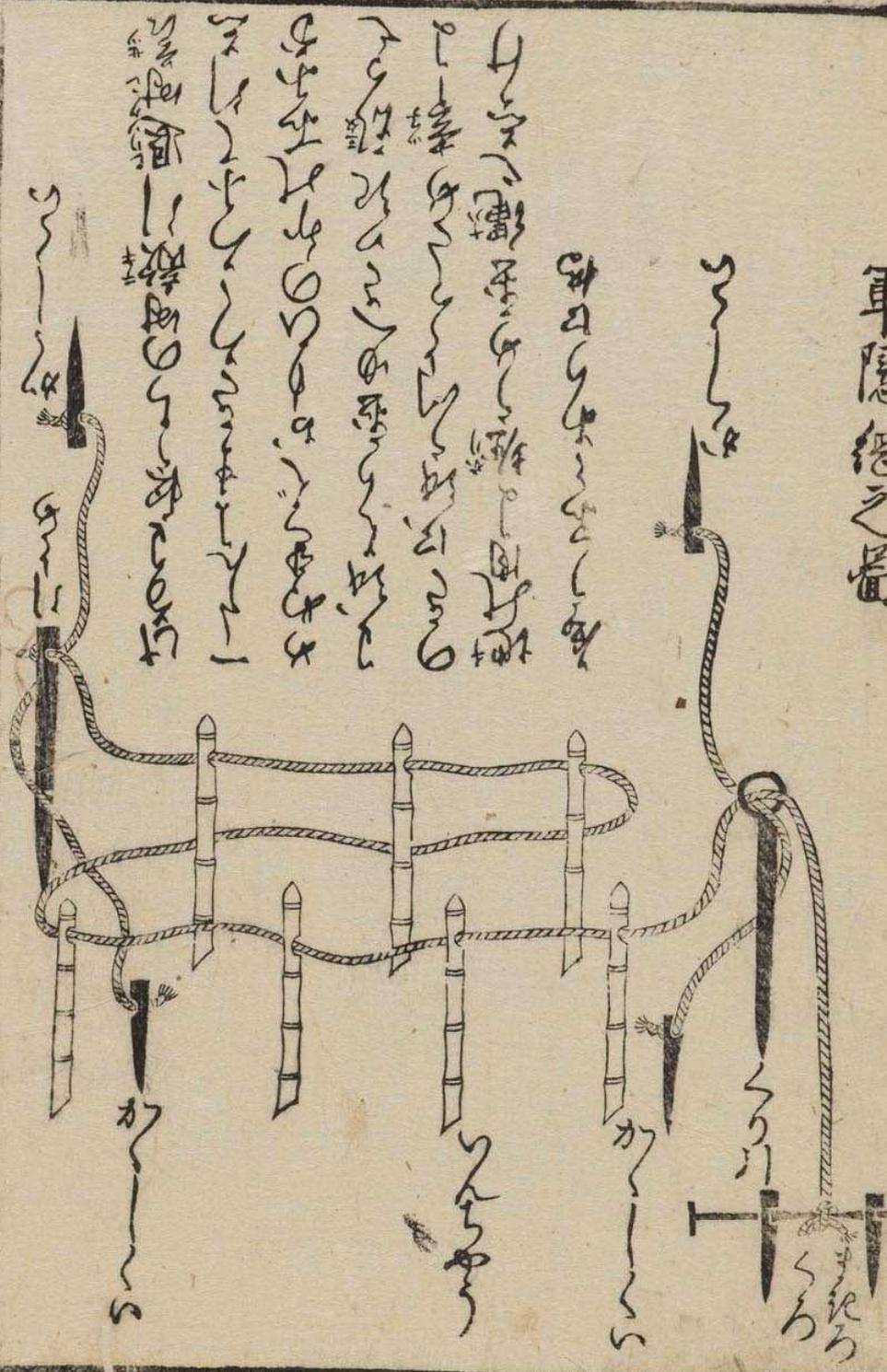
袋筒之圖

け袋筒は筒の中をさしおこし行とまじり切て
 のちりしきり切てしきりしきり
 ようて後よりさし入て後よそこ
 せし中れしきり明の火のほよか
 せしきりしきりしきりしきりしきり
 せしきりしきりしきりしきりしきり
 せしきりしきりしきりしきりしきり



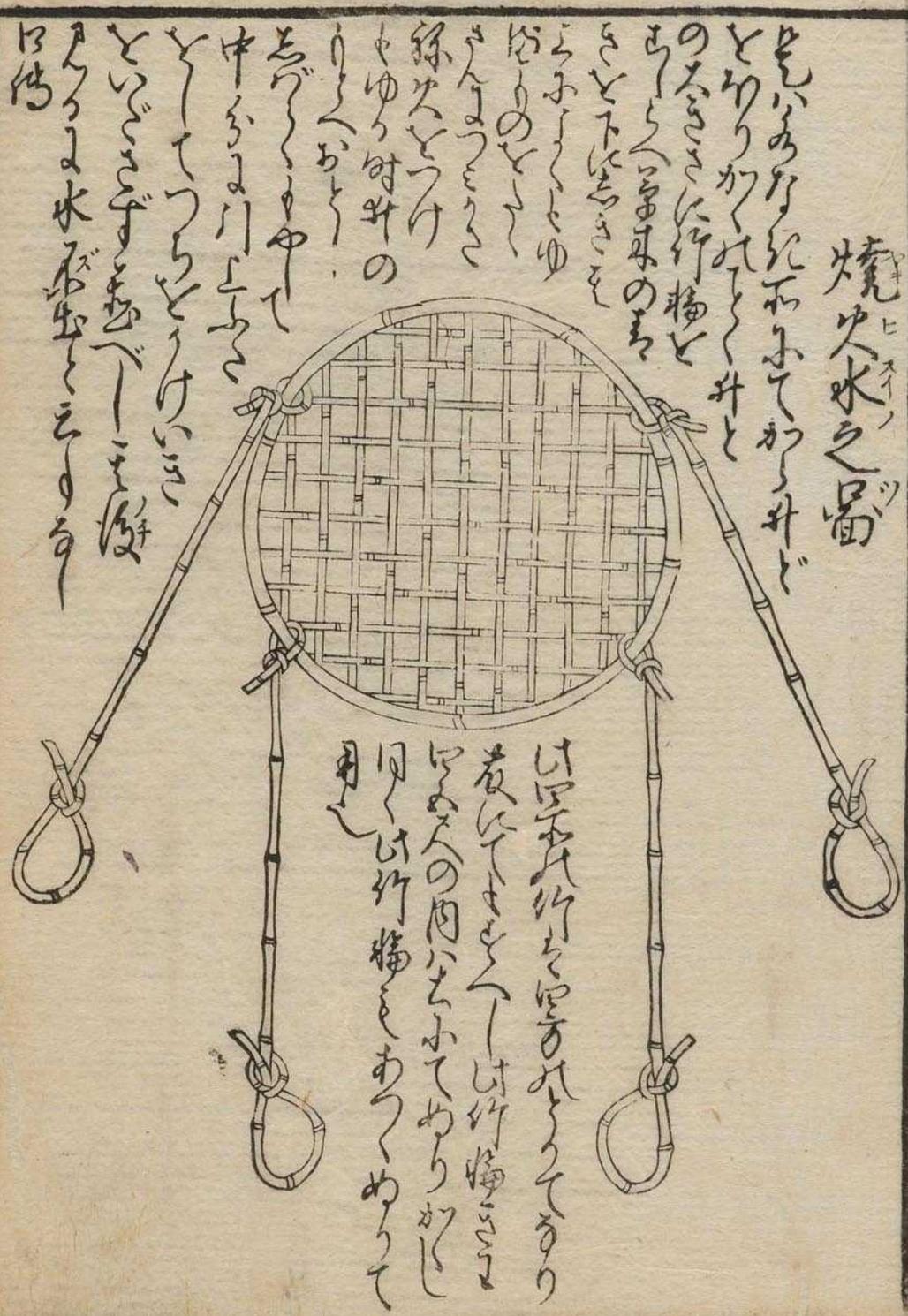
け袋筒は筒の中をさしおこし行とまじり切て
 のちりしきり切てしきりしきり
 ようて後よりさし入て後よそこ
 せし中れしきり明の火のほよか
 せしきりしきりしきりしきりしきり
 せしきりしきりしきりしきりしきり
 せしきりしきりしきりしきりしきり

軍隠總之番



此の器は...
 隠れ...
 竹...
 縄...
 隠...
 竹...
 縄...
 隠...

焼火水之番

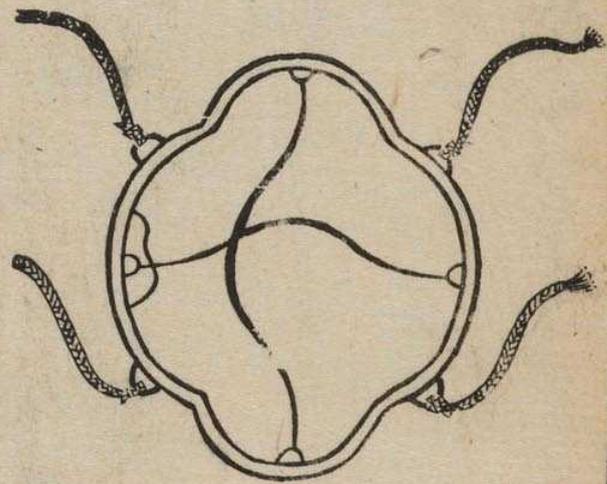


此の器は...
 水...
 竹...
 縄...
 水...
 竹...
 縄...

此の器は竹を...
 水...
 竹...
 縄...

水底之鬪

いよぬのかりり
あかひんむつろり
よつろひありてい
糸つひやうよ
くもつろものあり



いんをわてはる
のちあはと
ろりてちち十
文字の〇系出
いりてい
の自中い
とありてい
会りりりりり

ろのいのこぬんど目より下なるりあんのぞい
のちり二分うくしてちちわちとけけろり
とちちつげうろりてあちりけるりちち
二人ちすりてよしてちちちちちちちちちち
下者よいりりりりりりりりりりりりりりりり

馬面之鬪

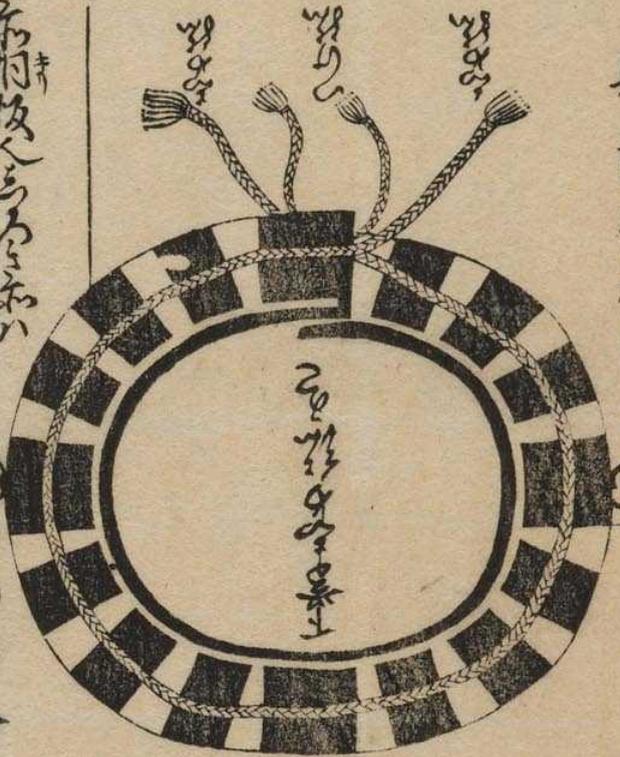


け毛にちちとあちち
ちちちちちちちちちちちちちちちちちち
ちちちちちちちちちちちちちちちちちち

馬面の鬪
ちちちちちちちちちちちちちちちちちち
ちちちちちちちちちちちちちちちちちち

躰浮之骨

躰の
骨の
寸法の
記述
に関する
文章



上の骨の寸法は...
下の骨の寸法は...

① 迴轉部長

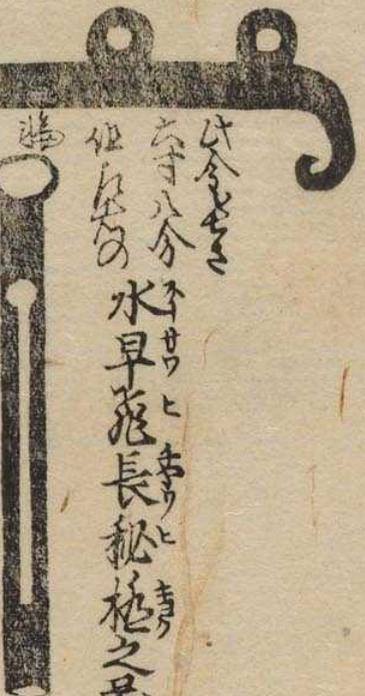
この骨の寸法は...
上は...
下は...

この骨の寸法は...
上の骨の寸法は...
下の骨の寸法は...

この骨の寸法は...
上の骨の寸法は...
下の骨の寸法は...

躰浮控輪之圖

此の骨の寸法は...



① 水早飛長秘極之圖

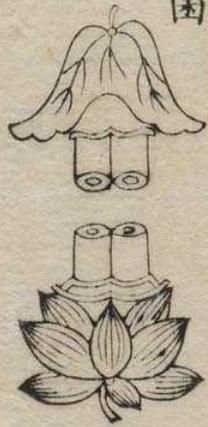
この骨の寸法は...
上の骨の寸法は...
下の骨の寸法は...

この骨の寸法は...
上の骨の寸法は...
下の骨の寸法は...
早川...
水早飛...

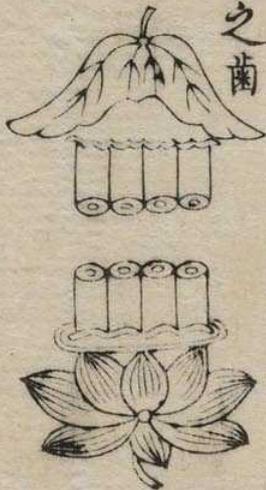
要馬秘極集卷之九上

歲見之事 第一

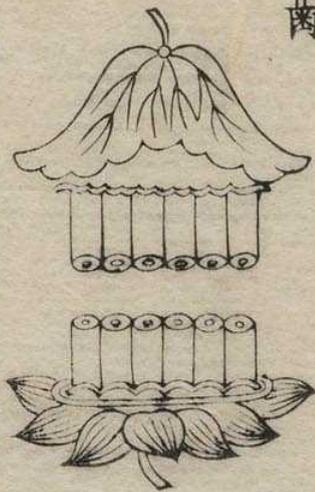
一歲之菌



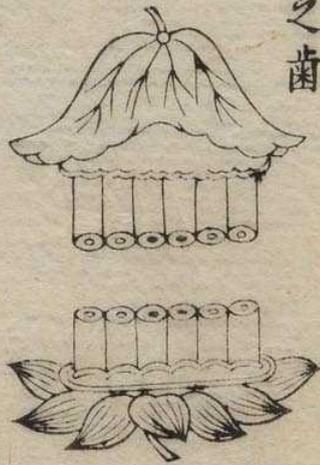
二歲之菌



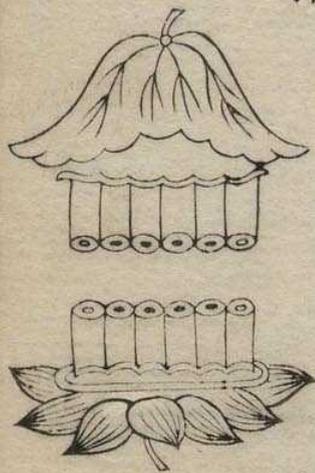
三歲之菌



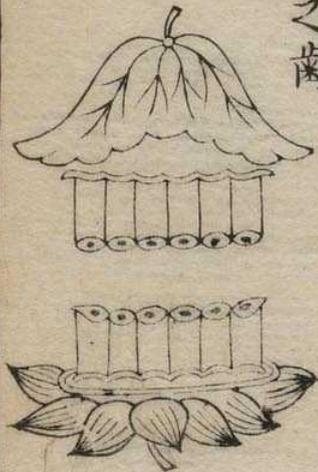
四歲之菌



五歲之菌



六歲之菌



て角あり玉向し付目の内閑ありて目間近く目の下
 肉あり間骨多く角ありて吹荒く大怒して鬚細く口
 のさをめ淡くはれ皮はこつて厚く下唇怒して二ヶ月骨い
 かりとありあがり楕面は神岩よめ色紙と掛をうらぶと
 しくはひ丸頸ありてかそく肉ありて骨さうりて骨さうり
 掛也面も同位也肩の三枚骨さうりて襟を遠肩強いら
 りて骨の間穴鳩胸小して肉あり但肩さうり骨さうり
 て肩もち頸と胸とれはさ合後退てあ肢の間せづく
 後節さうりて猪膝あがりて但肩はより尻をさまで
 あへてはれて小腕不折して尻をさうりて尻をさうりて
 乃時あはさうりて胸の内丸く寝くとして頸と胸と
 切遠は骨さうりて皮腹をさうりて細く二ヶ月切あがり首合
 ひさく三頭をさうりて尾はひさくさうりてさうりて
 但尾をさうりてさうりて二頭押下百をさうりてせいせいの

節までよくむ遠て内股をくはれあとの股肉厚くさ
 かり二枚股多く近くとまり節れ短く細く薄くはれめ
 きて節より下中よけこみ節より下拂ひ掛足間廣く
 けして不折尻をくむよ打む楕形ありて居掛也
 さうりて面をさうりてせいせいと顔はく耳をく
 さうりてより耳のひさくさうりて山間廣く眼よりして大よ角を
 て角あり玉むより付目の内閑ありて目の下は肉ありてこ
 けり間骨多く角ありて吹荒く大よ怒して鬚をさうり
 はれさけめ淡くはれ皮強く厚く下唇怒して二ヶ月骨い
 りとありあがり楕面は神岩よめ色紙と掛をうらぶと
 くはひ丸頸ありてかそく肉ありて骨さうりて骨さうり
 み付て居をさうりてさうりてさうりてさうりてさうりて
 りよさうりてさうりてさうりてさうりてさうりてさうりて
 鳩胸と云々肩さうりて肩さうりてさうりてさうりてさうりて

のふとんくさゆらうよ肉床く物出と他肩にりりや
とまのく寢て向延出とけ上と是を表し
入胸と云は是も肩さうりて肩離れ肩強いうりく
胸を平く角さくは角よ肉をさし是は向あけおら
中是を裏し

肩肩と云は是も肩さうりて肩さうりて肩さうりて
とれかて下ゆ肩にり寢ておよ是と打出と

早形之事 中三

上りれ大早道と拍子小して是れか
けうし思へど拍子何れ是次とん定くく一
かけと計んは是次大早とては計るよのまを相りま
もんかさうは程し

早馬にりや拍子此馬も是れ出りぬり拍子よ依
て大早なるま

早馬と場末少く也時馬は是のさくゆに
を鞍またまぬりあり是は七候の上れ早
早より二つ乗る一かを乗人として
内どんとと扱をさく歩む馬とよこし一は
人よりさゆりやしてあやますり馬と下也

早馬は目わさうり小見ゆりハ我目れあし
くゆらうり或はよん事前聴れ是を能可
大早道の馬聴是拂時うり見らあまり早
かた

おべし同馬中くさうりの見さか
又云は是ハあ聴れ是中よ計りて見
けり見ゆり

早馬ハ子々よ乗て是後地
大拍子よゆり細く大早よ乗て
こよ小早よ

の事かゝるは故に也

早馬はとて重て是早是を程出さる付々本肢は
中膝向へ出てかむしこけけのまゝ何とせむまゝとてその
上は是ら出り後と亦然

早馬と地はよ引せてらんは腰れ一の敷れ骨さざりて
付は腕のかへ骨出てせいせいれ節もさく付伸腕が
ら一の敷れ骨も肢腕のかへ向て伸腕より先まてが
かへ向て地際と八文字は強く踏付けとくむなりと
とく也是と痛さうこと知べし一乃敷の骨あがり
まはさよつさうが終一のけがれ骨のはりて付二
まはさ切わらん肢腕は骨はるまはさ八字は押へ
早馬の上腕のかれ悪さハ腕はせうまて腰とあつて是ハ
別立馬ゆく腰とあつたりなり

早馬の上腕は上より五寸肩より腕さざりて付と

ゆまともは故の下あくハ口す下りて付りて是上腕
より上腕の下肩との骨よりとあくと足とあけてらん小
上腕より肩より骨腕の方へかひく思ふ肩と頸の方へ
是の骨さひく則て特肢の中節より下長短と名事の中
節より下短さハ棚の下より腕ありまら上と節れ下を
と棚の上とゆくと腕出ゆと思ふ

早馬はよよあひくは腕細さとりりかひと不な故
頸と胸とれ付合胸の方へあて付襟を遠百と胸の方へ
あてて目取の骨よりせいせいれ節まきく腕を遠く後
筋場ハけまりは腕長くハ上とれハ早道也

早馬はよよあひくは腕細さとりりかひと不な故
頸と胸とれ付合胸の方へあて付襟を遠百と胸の方へ
あてて目取の骨よりせいせいれ節まきく腕を遠く後
筋場ハけまりは腕長くハ上とれハ早道也
早馬はよよあひくは腕細さとりりかひと不な故
頸と胸とれ付合胸の方へあて付襟を遠百と胸の方へ
あてて目取の骨よりせいせいれ節まきく腕を遠く後
筋場ハけまりは腕長くハ上とれハ早道也
早馬はよよあひくは腕細さとりりかひと不な故
頸と胸とれ付合胸の方へあて付襟を遠百と胸の方へ
あてて目取の骨よりせいせいれ節まきく腕を遠く後
筋場ハけまりは腕長くハ上とれハ早道也
早馬はよよあひくは腕細さとりりかひと不な故
頸と胸とれ付合胸の方へあて付襟を遠百と胸の方へ
あてて目取の骨よりせいせいれ節まきく腕を遠く後
筋場ハけまりは腕長くハ上とれハ早道也

早馬とる場へ引出せしる場軽目と付りてか
 能辨よく切肩ゆくも常れ肩ゆくも脊入を
 早馬とる場買買よハ押へるせどと早辨と知へ
 早馬とる場の氣合と能ん合て素べー強く素心事
 あり色推て素心して足と不和却て辨よたれ曲出
 也素とてし裡筋も強血も流る
 駢上躰と始より足枝系付り付口少も不稱大足
 大拍子よ針素へ一小足よ素付りり一足と悪きより
 口後の足並と
 五肢の足並と
 六肢の足並と
 七肢の足並と
 八筋の足並と
 九筋の足並と
 十筋の足並と
 十一筋の足並と
 十二筋の足並と
 十三筋の足並と
 十四筋の足並と
 十五筋の足並と
 十六筋の足並と
 十七筋の足並と
 十八筋の足並と
 十九筋の足並と
 二十筋の足並と

三寸れ口 中也 三寸五分四寸口 下也

三寸れ耳よはすの山間之但三寸五分とをはすの山間と

也面を一并尾筒一尺二寸是素也

五寸の耳よ五寸れ山間之但はす五分とを五寸れ山間之

面短く并尾筒七寸五分素也

素福休よりりり福八寸也

福辨切遠のうみ事

一尺八寸のうみは候より七候まで又七候より上れうみを
 尾より一條は倍を或寛授用集よりんをより
 はすのうみ福まよりり 二寸五分はうみ福下的事
 前足の間五寸也但踏付重て去也
 福足の間一尺也但踏付拂て去也
 尾尖ありり指り 前福小腕の長は寸也
 福躰中小て不免事 中五

上間より中間迄此事

眼と肩骨のあいだ肉をくくけく肩骨より角あり此事
面の怒りよりたはくくしめたりと眼より凡極を自
之よりん強て丸よりまて玉の中筋ありてあくぢら
と柄より上と又眼の皮上下落くけく凡ありま
角をてて玉れ中よりくく悪くく眼凡筋肝要なり
搥筋皮よりいよりまてく同く毛も落さる筋之
肝と結之

肩先の骨下より肩の骨先いよりふとく角あり
胸の骨のあいだ筋あり

三枚骨より襟を遠く事

お股肩よりくけくはらして向へお出事

皮腹とのせと細くして毛より
此骨より二寸五分より但筋上此位八掛より

中より免より一より二可免中筋又筋中より
よりけりより一より押へより

取三頭押下より 二寸皮切ある事

百会よりせいまいの筋より股筋を遠くより八節より

下より下より中より筋の筋を遠く中の位より

筋より下より下よりより悪く

内股より 取股より肉厚より

筋筋小腕直なりよりより西より又はつ腕

より六竜の毛をれとよりより馬より依て免より

筋筋の凡より事

上筋より可免事 牙六

面の筋悪くこと上間より中間迄より可免也

耳より面長より毛より間よりより一但耳短く面短

より事裏より同あり

頸をく胸をささりて尻を前膝上此位より免とて一人但可
為中併し頸短く胸短き事と同位也

肩上の位より膝中より免とて一人但肩中此位より膝中より
肩脛上の位より前脛の端付并足間中此位より免とて一人
但肩脛中の位より右に踏付免とて一人

肩脛上の位より前脛の端付并足間中此位より免とて一人
立く節よりささりて尻を前膝上此位より免とて一人節より下踏
節よりささりて尻を前膝上此位より免とて一人

膝脛上の位より二重皮切ありて尻を免とて一人但此位
より押へて

三頭下より股の直遠上の位より節より下中より跳こまに
やとも免とて一人

股より直遠節より下中より跳こまに
股より直遠節より下中より跳こまに
股より直遠節より下中より跳こまに

入尾は后掛をささりて尻を前膝上此位より免とて一人但此位
より押へて右より何と早馬の理也

要馬秘極集卷之九上

歳見之巻終

要馬秘極集卷之九中

躰押之事 廿七

強肝之事 下肝之事

曲肝之事

すゝこの少らの下より横一寸五分より筋一筋と二筋とを
同躰の早馬にあてせぬ事なりこゝより筋とこれ也故に押への筋
と云はれし物は筋と云ふ事なり

伏兔と云はれ居るよりして後ゆりたりたしひきさるる事
遠足と云ふ事なり

上頸ありし事并頸肉之事

三枚骨のゆりゆく事

胸のさあを肩よりささけり事 捻折と此位より中折をさ
るゝ捻折中此位よりは肩押へて

胸れりゆりて使へり

お股より振かり但もろ牛膝より一膝白へりん
たを押へて

お腰く寝せつゝよりお膝よりの位より可為中事

お抱膝抱事但お膝よりの位より可為中事

角合はば腰より也

二重切ありゆりゆり 捻折上の位より中折押へり

ゆり 亦捻折中の位より大さなり押へて

股のよた

股より長股よりさなりゆり 但猿股と云へ

お膝節と血村

膝柔の内より中膝より出 踏付せり月八文

小端付りたえり

膝の節より下中よりさなり 股のさ遠方死ハ押へ

又節より下中よりさなり 押へ但中ハ踏まはさ

と股のさ遠より中位の位

お膝小腕より事又よぬさなりゆりゆり 腕より

さなりゆりゆりゆり 踏付せり

お膝中より下中事

踏付損壊る事

お襟間上磨く下せり 踏付又襟間上より下磨く 踏

付りゆり肩上の位より入てさなりゆり可為 腕

お膝ハ端付さなり

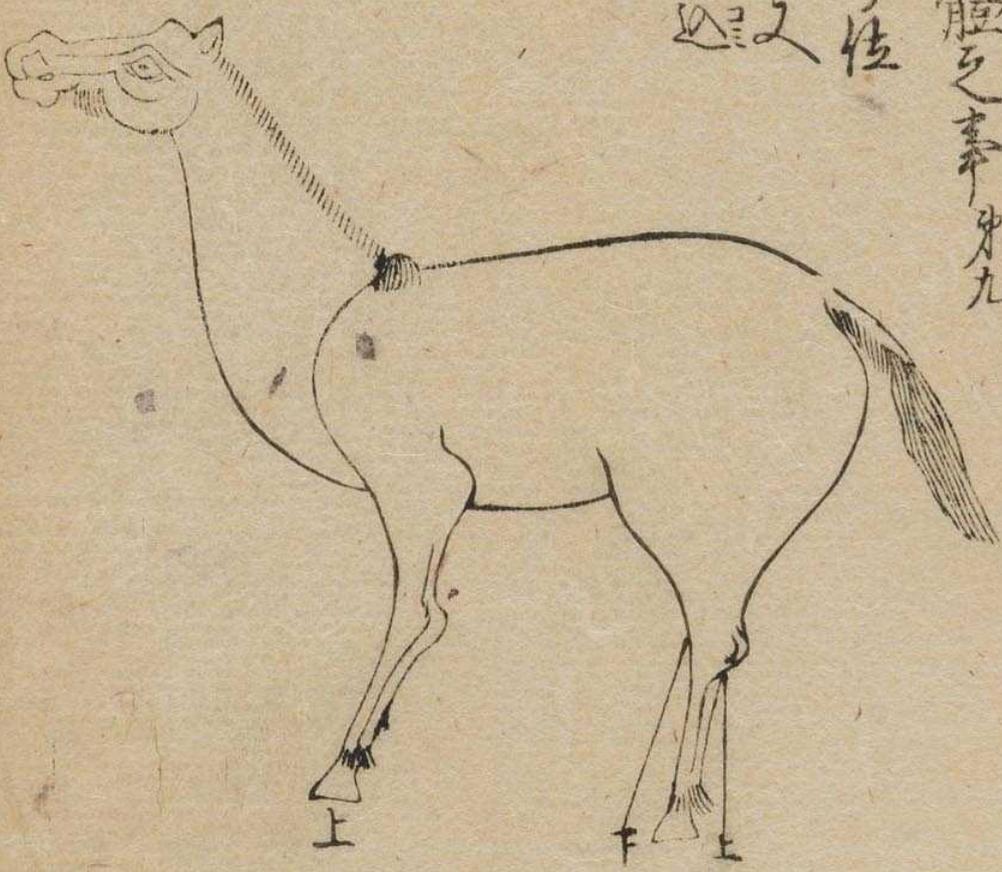
おのさなりゆり抱りて使へり 中折より同長間

も同あり又膝ハ踏付抱たせりゆりゆり 中の位より同

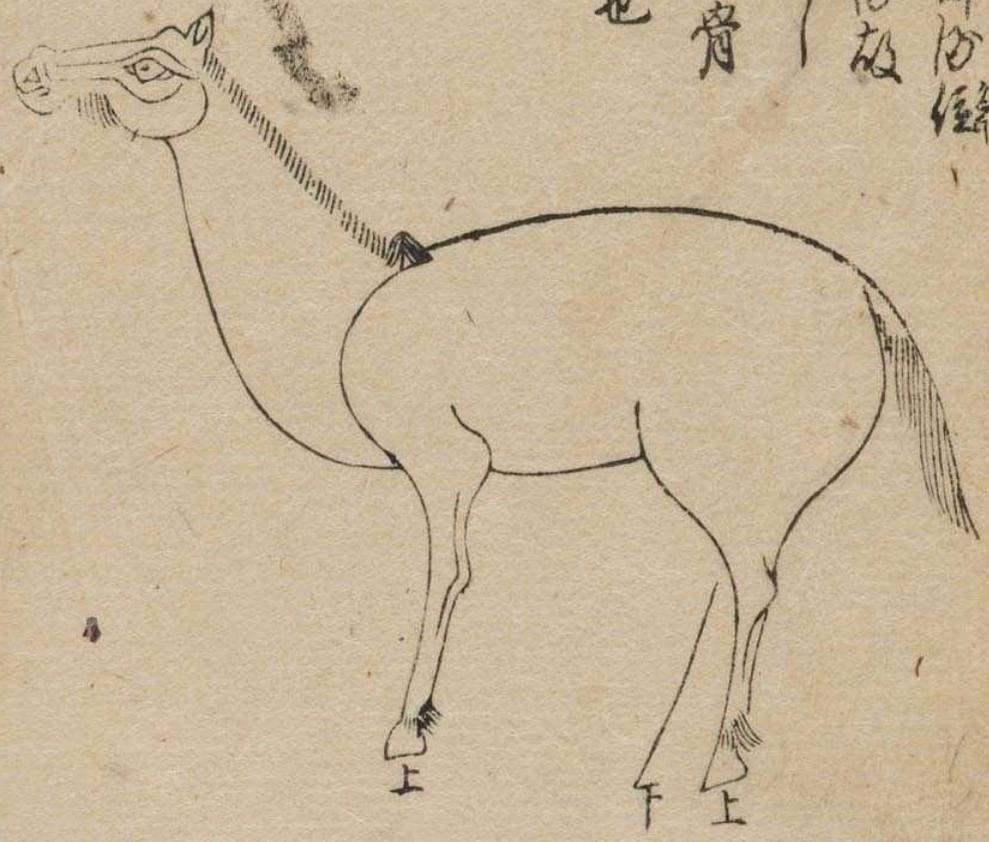
足間の中へ是れを前蹄上とせし後を乗れ内とせし踏付を
とべしとたしひ乗れ内とせし踏付をとせし是れを
ど揺神中れ位はくはれ是間踏付押へし
おれ踏付せしとくはれは是間踏付押へし
位を乗し入あらし抱膝を杖とせし
おれ踏付抱膝のせし付抱たらし肩膝上れ位を乗し余
せし踏付を抱る他お膝の位中へはれせし付押へし
おれ廣くせし付膝をせしより廣く抱しより前膝たし余
大さしよりせしはせしは肩膝上の位せしおれは
かり股を遠て第より下中へ踏付しよりはれは
後中よりへし又たの位せし第より下掃をよりはれは
息れし又お膝の位中掃せしより踏付平馬し

五足之體之奉 九

け馬居掛より位
魁拂てより又
中より踏付
よりを押へて

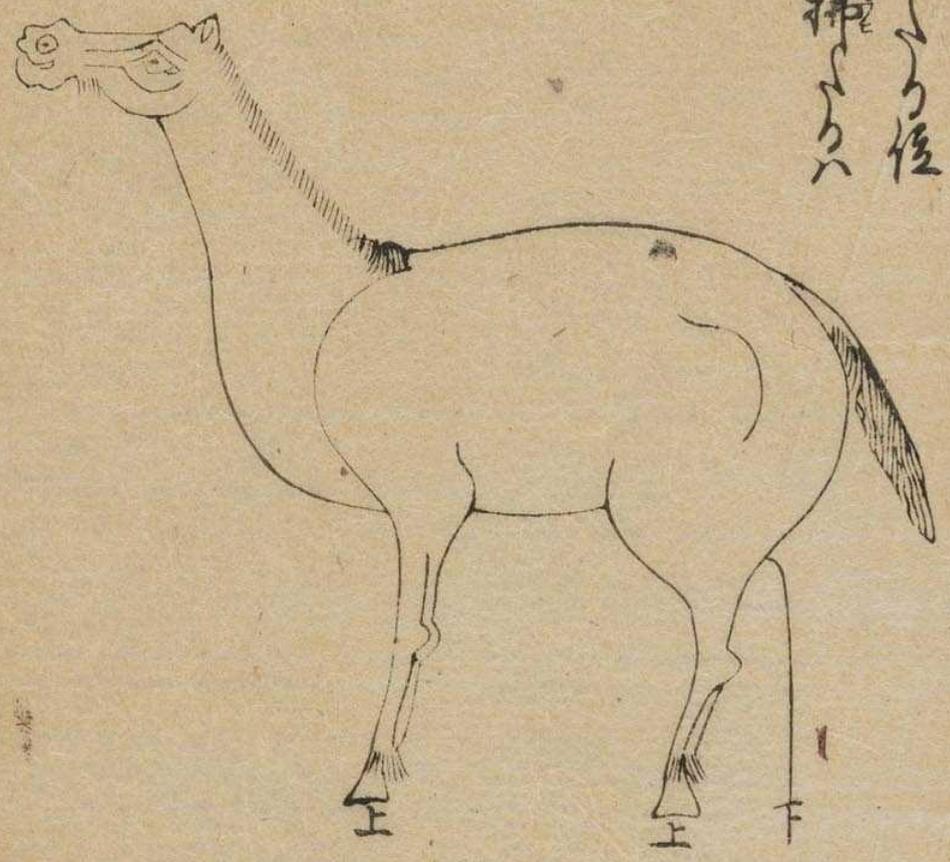


け馬中より又居掛ゆ候
あつ候より居掛ゆ候
體強く拂てゆく
蹄込よりい押へ脊骨
強より三頭強下也



♀

け馬居反りよりい候
體強く拂てゆく
押へ

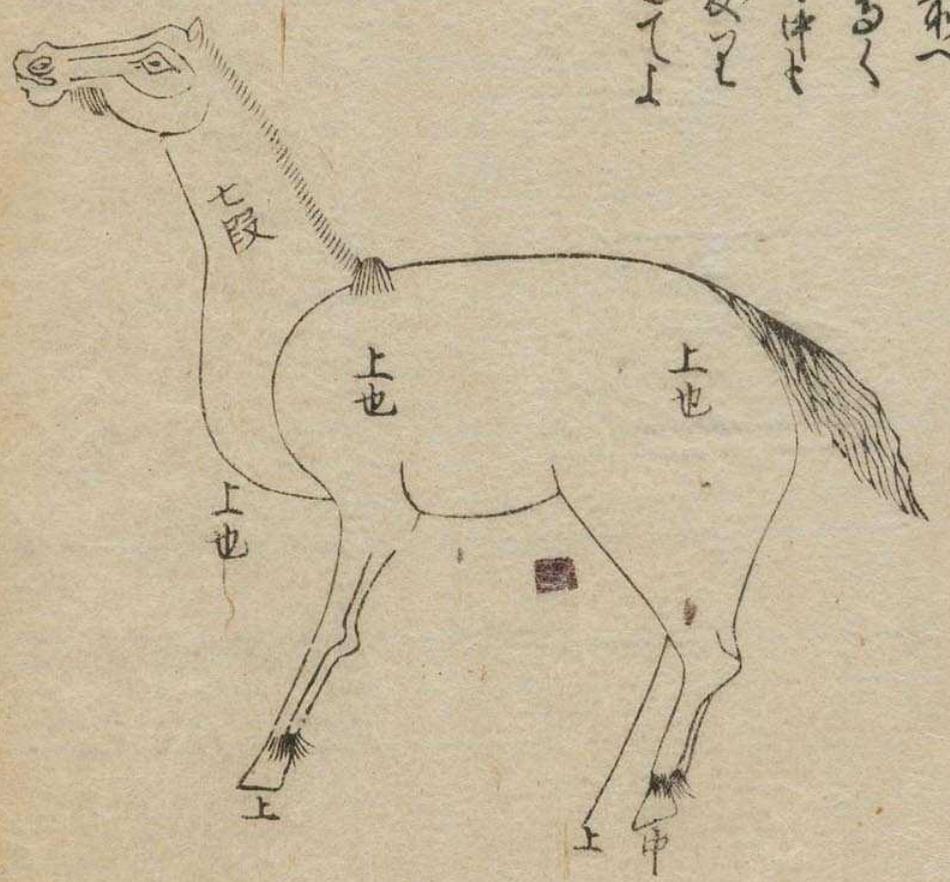


〇十一

け馬仲又居及より位
 艦踏込てより又仲も
 掃よりハ押入也



け馬切肩の位希へ
 居掛て頸上へ高く
 付よりハ掃てと仲も
 胸不て居及より
 掃より艦踏込てよ
 修くは偽



馬切肩

後引為之事第十

四後之目く事

四後れより一すのくは他一す五分中へは同く面
 船何れも中へ但前船の内より一すも二すも切らる事
 此舟より四後のくより一すも一すも切らる事
 云右四後の足並らふ事足並らふ事と云ふ事
 云く後れは拍子と揃てたりと云ふ事是れと云ふ事
 是れと云へば他船中へ中の位ゆく是れと云ふ事
 とも是れ位を中より外へ出づるは他船中へ
 石并押へれん事なり

五後之目く事

五後のくより一すのくは他一す五分中へは同く面
 目の内涼くは他船中へ利發なる面へ揺舞乃後れと云ふ
 一肉並波掛まては他船中へ利發なる面へ揺舞乃後れと云ふ

是並揺く是教と云ふ事なり

五後のくより一すのくは他一す五分中へは同く面
 角より一すのくは他一す五分中へは同く面
 一揺舞乃後れと云ふ事なり

六後之目く事

六後のくより一すのくは他一す五分中へは同く面
 上船より一すのくは他一す五分中へは同く面
 頭長く向へ延出り同く面を同く肩より骨の
 遠て股踏延節より下中へ蹴込り右左揺舞

切離キレ飛トビ不レむらげレる躰也ト是レ並ニ向ヘ頭ト延シ出ル
強ク居リりレ肩ノ口ノりテ飛テ大ニ是レ投シ出ル歩ム
てレ右ニ利カをシ小ナく大ニ拍子をシ投シ出ルとモ運ビ足ヲ
とモ右ニ左ニ任シ内ニ入リやウ肝カ要ヲ之レ隆ニ抵シ躰ノ引カ為スのレ而シ
并ニ押ヘのレ見極也ト

七段目よりこれより

七段のより前ニはすレまシひノ間上面もとレいハ面ハ骨荒く
筋少く毛薄小面とシて眼大まシたシてままシ
ゆレ荒く目ノ内周は少くらも心とシて称してととレ
まシてレ頭をく向強く居りて延シ出ル同面も同左ノ肩ヲ
先ノ骨ノひみたレくさりて襟より出テ膝中とレ
胸ノ内筋とレ切ルも骨飛テ頸と胸と切テ遠百とレ
アレ世のまの節向とレ強直遠テ股踏延テ筋より下レ伸ル
踏込り者七段の任と抵躰切ルも骨飛テ肉並筋筋

後掛足トを移シく少堅肉ト見ゆクは是レ並ニ向ヘ抵躰
后掛頸延シ出ル肩ノ口ノりテ飛テ大ニ是レ投シ出ルとモ
也ト大拍子をシてままシてレ延シ出ルとモ右ノ任と面抵躰ノ
の容れん筋をシ引カ為ス而シ押ヘのレ見極也ト

右足之レの目ノひみたレくさりて是レは口に付はシ付キとレ事ノ
系ノ筋ト同レは口に付はシ付キとレ事ノ者ありとレ是レ躰
とレ相違へテ系ベクレ

先五位躰定事

面ノ口ノりテ眼ノ事ト

肩ノ口ノりテ三枚骨下并襟直遠テ之レ事ト

胸ノ口ノりテ中ノ下レ事ト

筋ノ口ノりテ股直遠テ之レ事ト

口ノりテ足ノ口ノりテ踏付れル

右五之レとレ筋とレテ筋引為ス

四段ハ十二と引落他十三と也四段の位ニ
 五段ハ十五と引落他十六と也五段の位ニ
 六段ハ十八と引落他十九と也六段の位ニ
 七段ハ廿一也此引落といふとも右月〇〇と引上中

下と引落
 前船の足五段と見定事

四段前五段の位ニ船四段の位ハ前と舳と定前と船ハ引
 落引下〇〇と引落〇〇ハ四段の位ニ引下掛後ハ四段ニ
 同 前四段の位ニ船五段の位ハ前と舳と定前と船ハ引落
 引下〇〇と引落〇〇ハ四段の位ニ引下掛後ハ四段ニ
 五段前六段の位ニ船五段の位ハ前と舳と定前と船ハ引落
 引落引下〇〇と引落〇〇ハ五段の位ニ引下掛後ハ五段ニ
 同 前五段の位ニ船六段の位ハ前と舳と定前と船ハ引落
 引下〇〇と引落〇〇ハ五段の位ニ引下掛後ハ五段ニ

六段前七段の位ニ船六段の位ハ前と舳と定前と船ハ引落引
 中下〇〇と引落〇〇ハ六段の位ニ引下掛後ハ六段ニ
 同 前六段の位ニ船七段の位ハ前と舳と定前と船ハ引落
 引下〇〇と引落〇〇ハ六段の位ニ引下掛後ハ六段ニ
 七段前船七段の位ニ次下〇〇と引落〇〇ハ七段の位ニ引下
 掛後ハ七段也

息之定早道ニ歩心特之事

- | | | |
|----|----|-------|
| 鹿毛 | 鶴毛 | 七杖 |
| 鷄毛 | 粟毛 | 九杖 |
| 鷄毛 | 何毛 | 十杖 |
| 點毛 | 何毛 | 十杖 |
| 大衆 | | 二分又ノ外 |
| | | 上十日 |
| | | 中十日 |
| | | 下十日 |

小衆
 下十日
 上十日
 中十日
 上肝

息當事 第十一

息と當於り百五十間此場小て吾^{ワカ}は息と一返り
息と一返り馬と當り時早足十分出りりりりり時
息と當り法苑經此文也大秘事之六尺五寸六枚
四返り

百五十間馬一返字数

四百八十當

百間

三百二十當

五十間

百六十當

十間

三十二當

一間

三當

五返り

三八

百五十間馬一返字数

三百八十四當

百間

二百六十當

五十間

百三十當

十間

二十六當

六返り

五二一六

百五十間馬一返字数

二百八十八當

百間

百九十二當

五十間

九十六當

十間

二十當

一間

二當

七返り

二半當

百五十間馬一返字数

四丈

百九十二當

百間

百二十八當

五十間

六十四當

十間

十三當

三間

四當

一間

一ツ三分當

馬場と百五十間より少ければ同候の早馬は合せず
 大右乃息と當り馬といく杖子に違ふ致し入る
 右より何れも早馬の理に畢竟速早と知べきに
 之馬の系寂中ゆして致し前へ来る時目より仕
 至して肉へかりとしかつなりとも一息の休まりあり
 又目より仕は至り次の馬系あり時又伸るる
 少して前此目より仕とつりして息はさうど
 而も致して目より仕とつりして前此目より仕
 あり此間何れも或るつりして前此目より仕
 然とぞれと知りてさきより息ありとつりして

あゝる極極集卷之九中

躰押之巻終

要馬極集卷之九下

馬大小の事

馬形

尾より四寸下

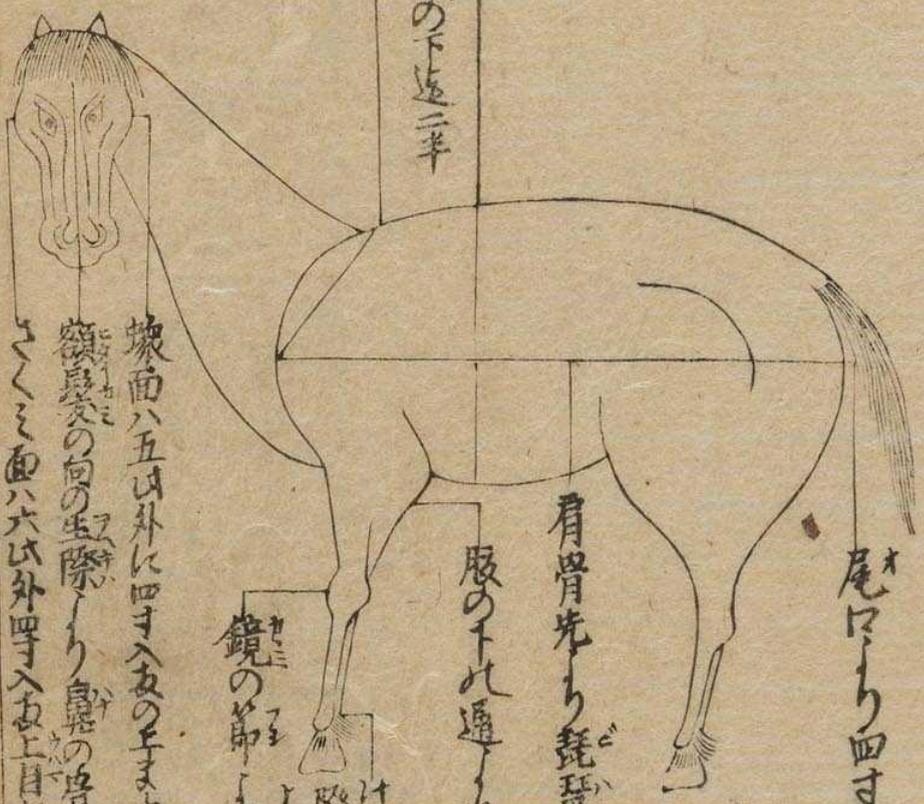
肩骨先より琵琶股迄三寸

腹の下此通より九先迄三寸

けうの節より地
 際迄九寸三十分
 上へ亦六寸五分
 鏡の節より九先迄三寸

脊骨より腹の下迄三寸

一尺八寸



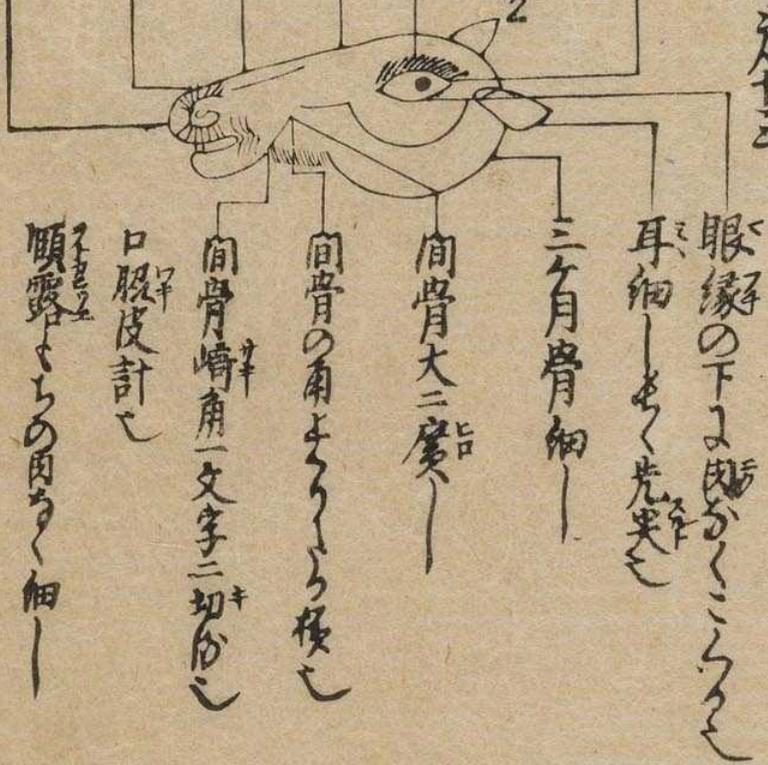
鞍面八五以外に四寸入友の五寸の角より五
 額鬘の向の生際より鼻の骨先迄三寸
 さくこ面八六以外四寸入友上目録の角より五

右七れりひとらて七のうの各とりてけのゆるとれり
 さゆふと兼用して引落のゆるふと可三
 駒生て七日れ内をうのふと指て一尺は三すうて是て量し
 一月は四分つと上とつり三十三月あてつけ定む
 生まてつり月とゆふ人と指てあてて未れ月と採末月較と
 候く見む
 七のうひ何と三十三月の何をもつるた允にまれをれゆるし
 二歳々十二月と知べ
 三歳ハサ四月と知む
 四歳ハサ三月と知む
 二歳三歳四歳迄の月と採末月較甲から宛終つて入る
 三歳々二十四月にして定ると天個下の廿四月の内ふてま二歳と
 朝むと不喰まはは極くらんは先うくと候ハ何と養
 候とも早足出づる長ケ延る養と知べ

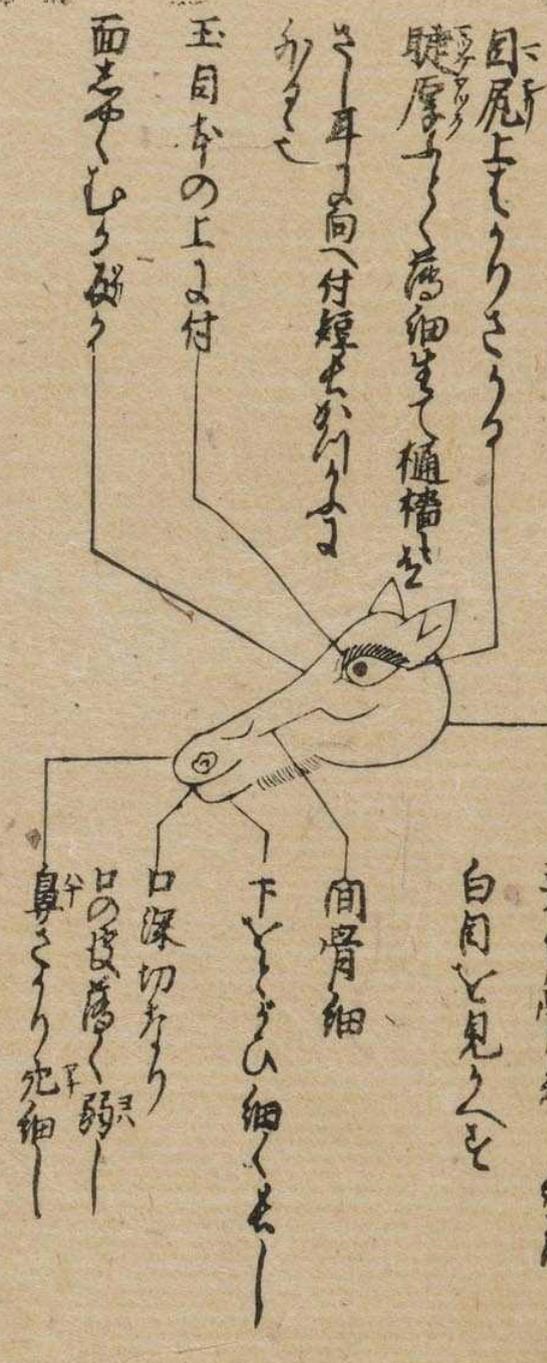
名目小川むしらんうは毛惹はけのゆるは養のた系出る候
 たりこまて強く養く候と候よけは曲可也

秘傳定躰之事 中十二
 人喰馬

目の後下月尻計上揚也
 眼ゆく厚文先及とをせしむ
 黒眼目尻よふあて
 白目大也上眼縁よ角立
 面の毛細綿の如乱也
 鼻と光す
 唇落齒見ゆかり



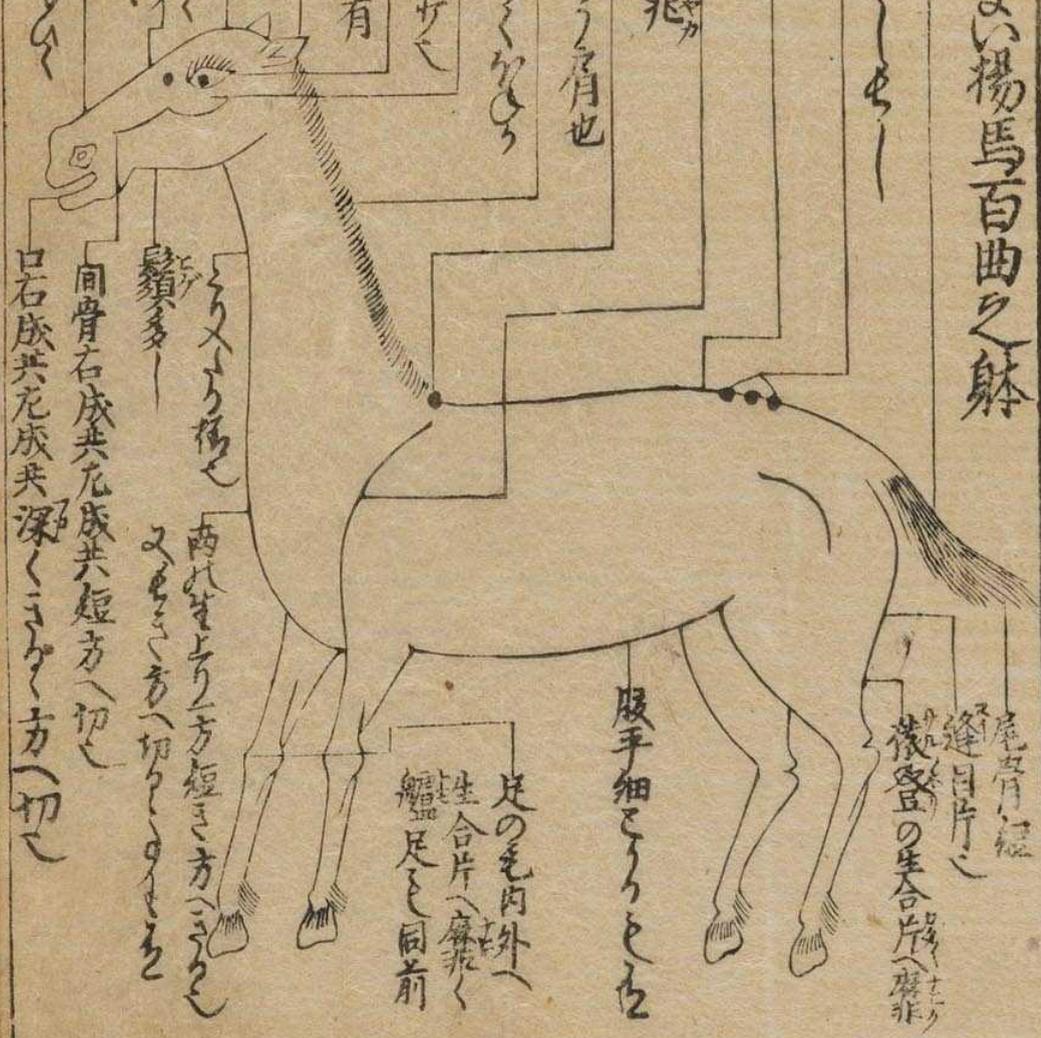
け外坡掛厚一毛細長龍の毛なり足太く筋何れ荒尾の毛細一
込馬



面細一短一筋腹の筋も一せいさいの筋もさう腰の骨のさ
てとさう色蓬毛の間と折骨の間廣内股切揚り血向短一
毛太くも一赤はと細の根ももさ頭の根もく上頭あまり
下頭はまりあ足版の下(下アとして付)

切馬つをけさい揚馬百曲之躰

尾の毛細く短く一も一
百舎除くとう
胸を腰細一
襟不直遠肩不窈
肩先の骨のりさうさう角也
毛頭あまらう赤とらうくわひう
月圓く長筋一月サレ
主片日本二目尻計圓目有
車前(麻非細々立替
睫多し片(らまてか
額のももくせ片(巻
面のさいさう中筋片(あひ



口と間骨れあひびど肉厚くもろ間骨長とろろろ亦短
くもろろろ事ととと

鼻^ナ草乃^カ苗^ノ骨の上^ノ支^シ服^フ薄くさくれもろろ^ニ喰^クと
と^シ傍^ナら^シ磨^ルととと

眼^メ大^キ玉^{タマ}ま^シく^シ冷^シと強^ク出^スとろろや^ウろ^ク自^ラありは眼^メに
大^キよ^クわ^シこ^シも^シり^シ眼^メの^メさ^シろ^ク腫^レ油^シ所^ニろ^ク動^クハ切^レ

或^レ込^ル或^レ揚^ル也^ナ眼^メ大^キよ^クは^シと^シも^シら^シあ^シく^シな^シと^シ不^レせ
と^シと^シと^シ眼^メの^メん^シを^シ肝^シ要^ス

睫^マ下^ノハ^シり^シ一^ツ極^クよ^クま^シり^シあり^シ又^シ睫^マ目^メの^メ方^ニさ^シれ^シも^シら
ま^シく^シも^シひ^シく^シ目^メ尻^シれ^シ方^ニま^シら^シま^シく^シも^シひ^シく^シ又^シ長^ク中^ニ

計^ケ厚^クも^シ薄^クも^シ生^シて^シも^シら^シ何^レく^シ亦^シ自^ラ頭^ノ目^メ尻^シろ^ク一^ツ方^ニ亦^シま^シ
て^シも^シら^シた^シく^シも^シあり^シ

右^ノめ^シは^シろ^ク何^レも^シ切^レ込^ル揚^ル百^ニ曲^ク之^ノ躰^也
固^クか^シろ^ク入^ルろ^ク人^ノと^シ喰^ク曲^クと^シろ^ク躰^也

拍^ツ耳^ノ向^キ付^ルろ^ク糸^ノ特^ニ向^キろ^ク凡^ノ耳^ノれ^ル内^ニ入^ルよ^ク短^クは
と^シ曲^クは^シろ^クあり^シ眼^メへ^シま^シろ^ク去^ル

頸^ノの^メ根^ノ薄^ク肩^ノは^シり^シ腕^ノ迄^ニ皮^ノ厚^クた^シろ^ク極^クも^シろ^ク
胸^ノま^シ方^ニれ^シ合^ス一^ツ方^ニは^シ短^クの^メろ^ク事^ナあり^シま^シれ^シ

方^ニハ^シ肩^ノ窠^ノく^シと^シ短^ク一^ツ又^シ短^ク一^ツ方^ニハ^シ肩^ノ不^レ窠^ス一^ツま^シら
也^ナと^シ短^クの^メろ^クろ^ク切^レ也^ナ又^シま^シの^メろ^ク

小^ノの^メろ^クま^シれ^シ方^ニ切^レ事^ナも^シあり^シ
胸^ノま^シ方^ニれ^シ合^スの^メと^シ毛^ノ色^ノの^メろ^ク小^ノ事^ナ頭^ノま^シ右

へ^シ毛^ノ色^ノを^シら^シま^シく^シ生^シろ^クろ^ク切^レ揚^ル極^ク
芭^ノ蕉^ノ毛^ノを^シら^シて^シ肩^ノの^メ骨^ノれ^ルと^シの^メろ^ク百^ニま^シれ^シ方^ニ

ま^シれ^シ曲^クま^シろ^ク胸^ノの^メ方^ニま^シれ^シも^シひ^シく^シ切^レ也^ナ脊^ノ
上^ノ骨^ノの^メろ^クま^シろ^ク小^ノ骨^ノて^シ事^ナあり^シ

馬^ノの^メ尾^ノ膠^ノへ^シま^シろ^ク切^レ也^ナと^シ出^スあり^シ
狼^ノ尾^ノは^シ内^ノ股^ノへ^シ尾^ノと^シ打^ツま^シ切^レ也^ナ或^レ揚^ル所^ニ又^シ云^フ雞

馬卷九下

尾尾はら尾蛇尾わけ尾栗尾筒尾筒か〜わ
 ら〜ぬい悪〜尾筒老さ〜ら〜と悪〜短〜ら〜
 悪〜尾筒細く望〜され肉〜あり〜と
 逆月のあれ脇〜肉あり〜ぬひめ磨〜同〜逆月あり
 可〜ら〜六喰〜ら〜糠〜と〜な〜ら〜は〜ぬ〜不〜逆月あり
 又〜逆〜ら〜ら〜逆月あり〜ぬ〜た〜た〜ぬ〜ら〜方へ
 切込〜逆月のあれ肉厚くぬひめ肉〜か〜き〜ら〜方へ
 馬へ〜ら〜ぬ〜は〜ら〜ら〜飼〜と〜れ〜と〜瘦〜ら〜ら〜曲馬
 と〜ら〜場へ〜川〜せ〜ら〜脇〜せ〜月〜と〜付〜ら〜と
 お〜ら〜摺〜付〜ら〜馬

切馬の躰ありけお〜骨あり〜は掛厚〜に股〜ら〜同
 節あり〜耳〜と〜面〜と〜下〜と〜頭〜は〜川〜付〜頭
 短〜と〜〜口〜せ〜け〜め〜膝〜間〜口〜〜逆〜と〜〜腰〜細
 く〜細〜と〜〜ら〜

紅よぶ馬

居〜ら〜ら〜拵〜ふ〜赤〜足〜挽〜れ〜節〜多〜く〜付〜逆〜足〜股〜より
 下〜細〜く〜節〜より〜下〜蹄〜込〜頭〜揚〜つ〜ら〜ら〜して〜白〜と〜際〜逆
 毛脊中迄のりり赤肢頸の方〜指〜お〜付〜耳〜向〜へ〜と〜同
 丸〜く〜ら〜ら〜月〜の〜ま〜つ〜ら〜毛〜磨〜

お〜ら〜馬

耳〜れ〜根〜細〜く〜一〜寸〜許〜と〜閉〜合〜ら〜り〜耳〜細〜く〜と〜見〜と〜ら〜ら〜り
 赤〜小〜息〜あり〜と〜と〜ら〜ら〜ら〜ら〜鼻〜息〜荒〜く〜吹〜へ〜と〜同
 玉〜中〜く〜細〜く〜股〜と〜足〜へ〜と〜又〜逆〜と〜と〜細〜く〜足〜へ〜と〜赤〜時〜さ〜入
 見〜此〜よ〜と〜と〜付〜け〜は〜針〜川〜と〜ら〜極〜よ〜方〜と〜ひ〜く〜と〜ひ〜く〜と
 毛〜磨〜く〜細〜く〜短〜く〜毛〜汗〜は〜足〜ゆ〜ら〜と〜厩〜中〜と〜お〜ら〜ら〜
 色〜と〜如〜喰〜時〜と〜あ〜ら〜ら〜と〜と〜と〜へ〜

紅ゆり馬

赤〜逆〜と〜と〜廣〜よ〜と〜と〜ひ〜く〜と〜と〜赤〜逆〜の〜心〜一〜足〜は〜

体しへ腕尾細く窵くくむくむく子細と序く
先密と齒は掛て引て見ゆ

橋をさしひ乃馬

目上とらうらうらうは付べし若是半膝なよ服へうら
是肩とめささばりのく猿股ゆく膝と少うとも云里
あしと不喰馬

頤せり一三ヶ月骨は開せり中にも頤の方せづく齒乃
内角ひさし毛ハ二歳より六歳まで乃事には枝一
唯長く細し頤の骨肉は薄し卵はあう極てあ股二
の間壁く肉けく五腕あへ上は右よ腹背ゆひあ
くく芭蓋毛乃同度く皮肢細く毛ハ乃中に進る
ありしと云り

揚馬

馬の骨脊迄ありてつまりしうく股大は膝股ハ

くくせいさいいのや馬多く付一足つまり立く膝尻大あ
て若肢腋の方よ付若肢細く後れ高多く付一足
多く若能小あて若筋より下計より頸多く付
短し面沖くり類ひさしとくさひくし歯も下歯
大よ上と同歯く

河那之馬

毛細く短し毛は金毛汗かた足乃毛多く面は
毛もあし一圃ま毛より唇は毛もあし一圃乃
肉赤し水とんでて口とくまむべしとくゆつ時と足
うれとす

片おろしの馬

目尻あうらう
頭三頭より
馬大よあし
面大よ長し
脊骨張あぐらう
揺躰馬平くあし

股平く大股也
前脛は足間狭し
前脛ととも廣くは立

諸れりくの馬

頸短し

頸の根少くは

胸長し

折骨は少く膝あり

馬細し

川ありは一方は二足出べし

右の外脛は高し馬は

よわくは五脛は六脛は高し

拍子遠鞍多き馬

下脛引けりとのふ付

前脛足平くは
四乃能片くへそむく

下頸也

前肢鏡乃節不折

脊骨衆出よさくは

股小肢也

尾引は尾筒細し

頸短し

前肢鏡の節高し

前脛足間狭し

脛短し

脛先細し

小冠之馬

口を

前肢中節向たるを

芭蕉毛せし

前脛節あり

尾筒あり

凡大也

無口之馬

口と云は面短耳短耳の根厚く上頸短く下頸長く頸乃

前脛足細し

腰と振

世に世いの節さるる

尾骨あり

脛先の骨の節あり

胸あり

前脛足あり

前脛と廣く下肢

脛足あり

根は肉の所へ生ず。胸經くわんくわん骨さう。ふみ下腹さう
 可程是をさくさくは立やひやう。枝掛厚くはれさけん
 淡くは乃皮瘻のぶくはく。牙出くもさう。響さうをさ
 くと引てんぬらぬら。

馬とんはさう。目付終之事。

一ははさう。二は眼さう。三は歳四は頸まわり。五は百念六は尾
 は總目能七は節八は腕。九は地と石をさ
 可あさく上中下と考へぬ。又疵を治すおれ是取と
 可見也。

馬の馬紐柄集卷之九下

大小之終終

